

令和5年度

沖縄県特別支援教育研究会 研修会⑤および第3回評議員会

令和6年2月22日(木) 15:00-16:45

@Zoomミーティング



沖縄県
特別支援教育
研究会

司会：会長補佐 仲松 智（名護特別支援学校教頭）

〈時間の目安〉	〈ページ〉
14:45 開場・Zoom接続確認	
※議決方法について事前にご確認ください	3
15:00 開会の言葉 副会長 與那覇 直樹（読谷中学校 校長）	
15:05 研修会⑤	別紙
「学校現場で活躍するASD当事者から校長先生方へのメッセージ③」 NPO法人東京都自閉症協会 綿貫 愛子 氏	
《質疑応答》※時間によっては省き、アンケートをとって後日回答いただく	
15:45 第3回評議員会	
報告① 研究大会の報告	4-10
議題① 今年度の事業・会計報告	11-19
《 質疑応答・決議 》	
次年度以降の研究会運営について	
議題②-1 会則の変更について（再確認）	19
議題②-2 会計について（再確認）	20-23
《 質疑応答・決議 》	
議題③ 次年度の事業・予算案	24-27
《 質疑応答・決議 》	
議題④ 研究大会分科会テーマと役割分担について	28-31
《 質疑応答・決議 》	
議題⑤ 研究大会分科会の持ち方について	32
《 質疑応答・決議 》	
連絡事項① 事務局輪番の確認	33
連絡事項② 次年度の九特連研究大会	34-37
連絡事項③ 全特連功労者の推薦について	38
連絡事項④ 次年度の役員の氏名報告について	39,40
《 質疑応答 》	
16:40 閉会の言葉 副会長 栗國 静夫（美咲特別支援学校 校長）	
16:45 閉場・アンケート回答	41

Zoomでの議決方法

オンラインでの議決方法については、Zoomの「投票」の機能を活用します。①事務局からの提案→②質疑応答→③議決という流れは従来通りです。

議決方法

1. 事務局より議題について提案
2. 質問がある場合は「チャット」または「反応（挙手）」で質問する
※ 詳細は別紙「Zoomかんたんマニュアル」を参照
3. 議題について「投票」で賛成／反対を選ぶ
 - 投票前に十分に考える時間を確保できない場合があります。提案・質疑応答の時間であらかじめお考えをまとめておいてください
 - 投票時間は1分を目安とし、投票率が参加者の8割を越えた時点で終了します
 - 賛成が投票数の過半数を越えた場合は「可決」とします
 - 匿名での投票は行えません
4. ホストより投票の結果が共有されます、確認後はウィンドウを閉じてください
5. 投票の結果は集約し、後日「記録」としてホームページで公開いたします

議題①について

1. 「賛成」「反対」のいずれかを選択してください(単一選択) *

賛成

反対

議題①について

アンケートが終了しました | 1件の質問 | 0/0 (0%) が参加しました

1. 「賛成」「反対」のいずれかを選択してください(単一選択) *

0/0 (0%) 回答しました

賛成	(0/0) 0%
反対	(0/0) 0%



令和5年度 第51回研究大会 レポート

1.当日の参加者

幼稚園・保育園 3名 小学校 44名 中学校 14名
 高等学校 1名 特別支援学校 26名 市町村教育事務所・教育委員会 4名
 保護者 1名 児童デイ・その他 22名 分科会関係者 53名
 役員・来賓 11名 事務局校職員 103名

2.公開授業の感想等 アンケート

【授業の感想等】

「幼稚部」

- ・ 感触遊びがメインの中、子どもとのやりとりを意識しているのがよくわかりました。子どもの言葉や発見・発想を言語化し、つなげる意図があるのかな、と感じました。
- ・ 本時の目標①③を達成できていました。
- ・ 幼児の遊びが、発展していく様子が勉強になりました。また、遊びが発展していくきっかけを、先生が見逃さず、声かけのタイミングも良かったです。遊びが発展するような、誘導も的確でした。
- ・ 生活していく上で、幼児にとって必要な言葉を、今回の感触遊びの中で、自然に習得できるように、意図的な声かけがたくさんあり、非常に勉強になりました。先生お2人の言葉や対応が終始丁寧でした。また、お2人の人柄や相性も良く、役割が交替していく様子もスムーズでした。今日は見学させていただき、ありがとうございました。

「小2 図工 つくってあそぼう」

- ・ 子どもたちも、落ち着いて活動していて、楽しく授業していて、羨ましかったです。

「小3 図工 きって、ぬって、はって」

- ・ 子どもたちが自分でテープを貼り付ける場所を見つけて、作品にして行く様子が素敵でした。自身の身体でテープの性質を感じて作品に活かすのは面白いと感じました。

「小5 国語 目指せ名人～正しい文に直してみよう～」

- ・ たくさん参考になる点がありました。助詞の使い分けという難しい課題でしたが、イラスト、具体物、動作など活用していてわかりやすかったです。段階的に、また個別に課題を与えクリアできるような支援、できたことを可視化しているところなど。文章で、先生がハンマーで先生をたたく という例文は適切ではないかと思いました。子ども達が先生の指示をしっかりと理解して、最後まで座って授業に参加していてすばらしかったです。
- ・ フライパンやハンマー等、絵や写真だけでなく、具体物も準備されており、学習に入りやすそうだなと思った。板書ではなく、進んだり戻ったりが容易にできるパワポが主で、子どもたちが待つ時間がなくてすむと思った。
- ・ 子どもたちの特性に応じて、先生方の支援サポートをしたり、ICTを使った教材作成もスゴいなと感じました。本日は、授業参観させていただき、ありがとうございました。
- ・ 助詞の学習では、子どもたちにイメージ持たせやすいように身近な写真を活用して言葉を引き出して、凄いなと感じました。
- ・ 私は、公立小学校の知的支援学級担任なのですが、指導案も授業もこれからの授業作りにとても参考になりました。導入のアニマル体操は、緊張をほぐしつつ、発声の促しにもなっていて、良かったので、取り入れてみたいと思いました。イラストとマッチングした文作り(助詞選び)では、文も面白く、実態の違う子ども達一人ひとりが、授業の中で、それぞれの個人目標を達成できるように、よく考えられていると思いました。子どもたちの気持ちの安定も考えながら教科学習の定着も図っていけるよう、私も頑張ろう！と思える授業でした。ありがとうございました。

「小6 角度についてしろう」

- ・ 小3段階の授業でしたね。
- 「わかったこと」を子どもたちと共有していましたが、少し難しかったかなあと感じました。角度とは平面上の点から伸びる2本の半直線が作る角の大きさのことだと思います。それを扇で提示していましたが、ちょっと難しいのかなと感じました。単純に急な坂道を作ってみよう。ぐらいをもっともっと身体を使って実感できるような取り組みが必要なかなあ。
- ・ 授業者の先生が子供たちを共感的に理解し受容しているところがよく伝わりました。動きを通し

て「大きい」「小さい」「速い」「ゆっくり」「角」を理解させようとしているところも参考になります。ブロックやボールを使って角の大きさを理解させようという手立ても子供の関心を引き付けるのに良いと思いました。

「角が大きくなると（ボールは）速くなる」というところについて、以下2点考えました。

①ボールの落下速度が速くなるのか、それとも転がった先の床のある地点まで早く着くのか、遠くまで転がるのか、どちらをさしているのかが不明瞭？

②上記と関連して、「ボールの落下速度が速くなるのか」であれば、目視では判断が付きにくい、また、「転がった先の床のある地点まで早く着くのか」であれば、角が大きくなればなるほど早くなるのではない（角が大きすぎると床に着いた衝撃で遅くなる）。後者と同様に角が大きすぎると遠くまで転がらなくなる。

とても学びのある授業参観となりました。ありがとうございました。

「高IB美術模写」

・有名な美術作品に触れる良い教材だと思いました。

【公開授業全体へのご感想】

- ・各学年の授業の様子を観ることができ、とても良かったです。
- ・生徒が集中して授業に取り組んでいる様子がとても良かったです。TVが移動式なので、各教室に設置する必要があると感じました。
- ・発達段階に応じて、授業態度がしっかり指導されていて、継続した指導を徹底することの体制さを改めて感じました。ありがとうございました。
- ・廊下などに掲示されてる、作品や掲示物にたくさんアイデアをいただきました。そしてたくさんの先生方が、特別支援に関わっていることにも感動しました。今日は、貴重な時間をありがとうございました。
- ・児童の実態に合わせて言葉掛けや支援を行っていたり、教員同士が連携を図って活動を行っていたりして、改めて特別支援教育の素晴らしさを感じました。
- ・多くの教科の授業があり、指導案等とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・全校種、全学年の公開授業（指導案まで）を行う本気度がすごいいいと思いました。小中学校の教員にとってはとても良い学びの機会となりました。ただただ感謝です。教材研究や指導法については、小中学校とも通ずると思うので今後合同で教材研究、授業後の研究会もやれるといいと思いました。ありがとうございました。

3.研究大会アンケート結果

(1) 概要

期間：令和5年12月15日（金）～12月22日（金）

方法：Microsoft Formsで収集（匿名にて処理）

対象：研究大会参加者 各位 （80件）

(2) 満足度

4.30 / 5

(3) 研究大会についてご質問・ご感想・ご意見等

- ・初めて参加しました。たくさん目から鱗状態でした。指導案が細かく丁寧で素晴らしかったです。講演会で、紹介のあった、ロイロノートが魅力的だった。沖縄県も取り入れてほしいです。
- ・今年、初めて特別支援学級を担任しております。今回初めて特支研に参加させてもらいました。小学部の参観は、掲示物や授業内容などとても勉強になりました。1年生～6年生まで系統性のある授業内容であり、工夫や個別に特化した内容でした。休み時間には担任の先生から色々な話を聞けたりと先生方もお話ししやすく色々な勉強ができました。三浦先生の講話も実践内容があったり、合わせた教科の内容もとてもわかりやすかったです。分科会の動画配信もとてもいいです。今日までの取り組みお疲れ様でした。また今後の取り組みやご活躍を応援しています。ありがとうございました。
- ・4、5年前に合わせた授業ってどんなものだろう。と疑問がありその時に学び直しをしたが知的特別支援学級から離れ今日の講演を聞いて教科別の授業を取り入れていることを知り自分の勉強不足を強く感じた。これを機にまた学び直していきたい。
- ・自立活動の内容、活動方法、支援学校の授業内容がよくわかりました。
- ・特別支援学校での様子を初めてみるのができ、とてもいい経験になりました。
- ・公開授業では先生方の取り組みが見れて、参考になりました。分科会も楽しかったです。ありがと

うございました。

・学びの多い研究大会でした。参加して良かったと満足しています。今後、勤務校でも支援学級が新設されるのだが、私自身、これまで支援学級に関わったことがなく、「自立活動」に関する知識が全くなかったのが、今回得た学びは今後の教職に活かして行きたいと思います。

・特別支援学級を担当していますが、教科をすべて教えないといけないとは知りませんでした。定着しない、理解できないからさせないではなく、体験としてさせてみる、生きて行く中で定着していくということが、すごく納得できました。どこまでさせるか迷うところですが、全く触れないという単元がないようにしていきたいと思いました。

・大変学びになりました。支援学級を受け持っていますが、知的障害のある児童にとってどのような指導や授業づくりがいいのか日々悩んでいました。その悩みへの糸口が見えたような気がします。ありがとうございました。

・三浦先生の講義が、とても勉強になりました。日々、子どもたちのために、これからも努力していきたいです。本日は、貴重な講演をありがとうございました。

・山形県の学校が合わせた指導を行う理由が知りたいです。

・講演会の内容が大変勉強になりました。ありがとうございました。

・指導助言の中であやはし小学校の陽子先生の実践で突っ込みどころがたくさんと仰っていたのが気になりました。良い意味なのか悪い意味なのかはわかりませんが、どの部分が突っ込みたかったのか知りたかったです。陽子先生本人も大学院で研究している最中で、気になったと思うので是非教えてほしいです。

・記録係として参加したが、名護特別支援学校の授業の様子を見ることができて本当に勉強になりました。また研究会では島尻特別支援学校、あやはし小学校の授業実践報告を見ることができて貴重な体験をさせて頂きました。勤めている学校でも研修内容を報告し、今後活用していけたらと思いました。本日はありがとうございました。

・分科会では、県の政策や実践事例が聞けて良かったです！学期末、お忙しいときだったと思いますが、授業や調整などありがとうございました！

・初めて特別支援学校を参観して雰囲気や子ども達の様子が見れて良かったです。

特別支援の経験が浅く、子どもの進路などをコーディネートする為にも学びたいと思って今回の研修に参加して、難しい内容もありましたが、多くの学びがありました。

・支援学校の子どもの学習の様子や、先生方の関わり方など、とてもステキだなあと感じました。落ち着いた環境で学習することや、一人一人の状況に応じた対応をすることの大切さを改めて実感しました。まだまだ勉強していくことがあるなあと感じました。

・これまで支援学校の授業のイメージは、大半が「合わせた授業」というのが有りましたが公開授業で見たものは国語や図工など明確な目標があり、個別の支援計画のもと指導されているのが感じられました。子ども一人一人が本当に大切にされていると感じました。記念講演での講話された三浦光哉先生のお話でも指摘されていた特別支援学校であれ、通常学校であれ指導要領に示されている目標に向かい将来に子どもたちが身につけるべき必要な力をつける事ということを改めて強く意識させられました。今日受けた刺激を現任校でもシェアしたいと思います。すべての関係者の皆様に心から感謝いたします。

・たくさんの小中学校の先生が参加してくれて良かったです。

・ICT 機器を上手く活用してどの実態の生徒でも自己決定できるような授業作りをしたいと感じた。はじめは難しくても継続していけばできるようになると感じたので、モチベーションを保って継続していけるように少し変化を加えながら活動を行うことで成功体験を経験させて生徒の自己肯定感を高めていきたいと思いました。

・午後の講演会と分科会へ参加しました。三浦先生のお話の中で知的障害を持つ子どもたちの将来を見据えた授業づくりの視点について学びを深めることができました。順序性や系統性をふまえた教科指導、どう学ばせるか自己選択・自己決定、児童の実態に応じたカリキュラムマネジメント・自分の実践と照らして反省や課題も含めてこれからの授業づくりに活かしていくヒントがたくさんありました。第一分科会の実践発表は、その具現化をいかにみんなで共有していくかと言う点ですごく示唆に富んだ内容でした。一人一人が人生を豊かに楽しく生きていく共生社会の実現に向けて私も子どもたちと一緒に考え、いろいろなことにチャレンジし学びをつくっていききたいなど前向きな気持ちになりました。参加してよかったです。ありがとうございました😊

・先生方がとても丁寧に子ども達に接していたのがとても印象的でした。先生方の連携の仕方も素敵だなと思いました。子ども達も緊張しながらもしっかりと学んでいました。貴重な時間をありがとうございました。

・子ども達の、学校での様子を見ることができ、頑張る姿に驚きと感動がありました！ありがとうございました。

・公開授業、記念講演、分科会それぞれにたくさんの気づきと学びがありました。このような機会を提供していただき、ありがとうございました。また、事務局はじめ運営にあられた名護特支の皆様、お疲れ様でした。

・名護特支、八重山特支の校長がそれぞれ個性的でよかった。管理職対策の参考にします。公開授業

もよい授業だったのですが、他者を人格として尊重し、対人関係の距離の教育として「～さん」づけはすべての県立学校で徹底して欲しいです。特別支援学級の担当者が、間違っただけ「学び」をしかねません。お疲れさまでした。

・県教委に直接、予算についての要望を伝える機会になって良かった。P会長の意見が後押しになれば良いと思う。

・今後の沖縄県の特別支援教育の方向性や展望などを、教育課や教育センター主事の方から解説してもらいたかった。

理由としては、

①今後、三浦先生の実績を準えていこうとしているのか、

②または、沖縄県独自の具体的な方針があるのか、あるとしたら、あまり教育現場に伝わっていない印象がある。

①への流れが、今後県内の特別支援学校で行われるのであれば、沖縄県の特長(財政、現状、課題)に応じて特別支援学校におろしていただきたいです。

実際の教育現場が、管理者のさじ加減で混乱、困惑などをしているという事実も理解してほしいです。

運営していただいた職員の皆様、お疲れ様でした。

追伸:体育館のシートを敷く手間を省くために、傷防止がついたパイプ椅子をおすすめします。

・とても充実していて、支援学校の授業の様子を観ただけでもとても良かったです。

・特別支援学校や中学校での工夫した取り組み、動画もあって分かりやすかったです。今日学んだことを日々活かしていきたいです。

・運営お疲れ様でした。ありがとうございました。

・授業も講演会も分科会もとても学びがありました。私は、第1分科会に参加しましたが、彩橋小の鈴木先生の授業実践のお話にとっても感動しました。三浦先生の講演の中でもありましたが、知的障害があっても、社会の中で活躍できる人材となっていく子供を支援できる自分でありたいと思いました。参加してとても良かったです。

・分科会で普段関わる機会の少ない小学校の先生の報告を聞く機会はとても貴重でした。第一分科会の彩橋小鈴木先生のお話は本当に勉強になりました。

・今回、研究大会の提案者として参加しました。発表の時にも少しふれましたが、地区の研究会も入れ替わりが激しく、運営も厳しい状況で提案者、分科会の役員を決めるのに苦労しました。特別支援学級は該当する生徒の数で学級数が決まり、増減が激しいので、教師も臨時、補充が多いです。また、専科外の教師の集まりなので、手探りの状態で始めていきます。1年担当して、自分の専科に戻っていく、担当する生徒がいなく、特別支援から外れる教師も結構います。これから先、研究を進めること、提案者の選出が難しくなると危惧しています。

・中学校では、支援学級の担任は主要5教科の教諭でない場合が多いので、支援学級でそれらの教科全てを指導する事は難しい。それを可能にする方法があれば、教えてほしい。

・初めて参加しました。自立活動について考えを改めるよい機会になりました。我が子が支援学校にお世話になっていることもあり、保護者として、教員として、これからさらに勉強したいと思いました。ありがとうございました。

・お疲れ様でした。充実したプログラム、ありがとうございました！名護特支さんの雰囲気の良い感じなのが、伝わりました。受付、9時15分に対し、公開授業が9時50分開始で、間が長すぎかなと感じました。

・全校種、全学年の授業公開(指導案まで)していただきありがとうございました。小学校で教員をしていた者としては、特別支援学校の様子を参観できとても学びの多い時間となりました。

三浦先生の話も大変興味深く拝聴しました。名古屋市の例のように外部の人がアドバイザーとして入ることによって忖度なく意見をもらえ、改革につながりやすいのだなと思いました。人選には大変かもしれませんが。

分科会の資料が各2ページ程で完結にまとめられていて、またプレゼンもあったので、さほどムリなく理解することができました。良い分量、時間配分でした。資料の事前配信もありがとうございました。

各分科会、どれも興味深くとても迷いました。分科会の様子を後日オンデマンドで配信していただけたらとのことで、提案者や指導助言者、運営の先生方においては大変かと思いますが感謝いたします。このような会を運営していると、フォームでのアンケートの回収率の低さが気になるところです。お節介かもしれませんが「アンケートに協力してくださった方へオンデマンド配信します」というように特典があると回収率が上がるのかなと思いました。意地悪かもしれませんが。

貴重な学びの機会をありがとうございました。

・2人の学校の先生が実践報告をしていましたが、それぞれテーマに即した実践を積み重ねられており、大変勉強になりました。報告された先生方、お疲れさまでした。

・分科会が多すぎる。昼食時間から全体会までの時間は担当校にとっては時間が短すぎる。食事すら取れない職員も多かったです。授業中の放送も行き過ぎているように思う。各学校成績処理や学期末業務がある時期にこの大会が開かれることにも疑問を感じる。任意団体の行事が公務化していることにも

違和感を覚える。

・放課後等デイサービスです。学校での様子や先生方の支援の仕方、関わり方等とても参考になりました。お声掛けいただきありがとうございました。

・講演会では、合わせた指導、教科別の指導について、お話を聴くことができたのがとてもよかったです。支援学級担任として、知っておくべきことばかりで、大変勉強になりました。分科会での支援学校、通常学級の取り組みや実践が素晴らしいと思いました。授業のヒントも頂きました。ありがとうございます。研究大会参加できてよかったです。ありがとうございました。

・運営お疲れ様さんでした。

・記念講演で三浦先生からご講演いただいた内容が大変分かりやすかった。教科指導や合わせた指導の違いについても良くわかった。また、名古屋市立若宮商業高等学校にできる併設の高等支援学校のシステムについて大変興味があります。

・幼稚部公開授業を参観させて頂きました。参考にしたいことがいくつもありました。記念講演及び分科会も含め充実した研究大会に参加できて良かったです。又、敷地内の見学もさせて頂き大満足です。

・本研究大会に初めて参加させて頂きました。特別支援学校のこと、合わせた指導と教科別指導のこと…など、とても多くのことを学ぶことができました。

公開授業では、6年生の算数で角の大きさとボールの転がる速さを子どもたちが楽しそうに試していて、とても面白い実践だと思いました。先生も「大きさ」「高さ」などの言葉を確認し大切にしながら授業を進めていてよかったです。ちょうど小学校3年生の私のクラスで角の大きさを学習したばかりなので、私が通常の学級での授業するときなら…と比べながら考えることもできました。最後のブロック(?)を縦置きするところは、通常の学級であれば一人が思い浮かばなければ「じゃあ、隣の人と相談しよう」「グループで考えてみて」という流れで協働学習や他者との関係づくり、コミュニケーションの機会にするかもしれません。特別支援学校の児童の実態によると思うので一概には言えませんが…参考までに。この公開授業を通して、体験を通して学ぶことの大切さも改めて実感しました。授業づくりや指導案の準備など大変だったと思います。先生方、授業を参観させて頂きありがとうございました。

分科会では特別支援学校の実践発表を聞くことができました。普段なかなか見たり聞いたりする機会がないので、貴重な経験でした。特別支援学校のこと等、お話を聞いていてもまだ分からないことがたくさんありました。今後もこのような機会に学ばせていただければと思います。

最後に、今回私は通常の学級からの参加でしたが、特別支援学校・特別支援学級の先生方の学びに参加させて頂き感謝しています。特別な支援を必要とする子どもたちは、多様な学びの場で学んでいて、今後は通常の学級でももっと特別支援教育から学んでいくべきことがたくさんあると考えています。通常の学級からの参加も増えるといいな、そしてすべての学びの場の先生方が共に学ぶ機会となればいいなと考えました。名護特別支援学校の先生方、運営等も本当にお疲れさまでした。どうもありがとうございました。

・先生方の頑張られている様子が分かって良かった。

・初めて研究大会に参加させて頂きましたが、たくさん学ぶことができました。教室環境や授業の進め方、子どもとの関わり方、講演、分科会発表と、盛りだくさんで充実していました。大会スケジュールで、もう少し遅い時間のスタートでも良かったのかと思います。学校見学の時間がもったいないと思いました。授業参観やその前から校内見学を並行して行うことができました。これまでの準備、当日運営とおつかれさまでした。ありがとうございました。

・石垣第二中学校の取り組みは特別支援学校以上に素晴らしいものでした。ぜひ、今回の提案・指導助言等を参考にしたいところを取り入れていきたいと感じました。また三浦先生の記念講演も、何度も拝聴しておりますが、今自分ができていること、まだまだなところを再確認出来て、とても有意義な時間を過ごすことができました。担当・係の先生がた、ありがとうございました。

・大会運営お疲れ様でした。記念講演も聞けてとてもよかったです。質疑応答にて、結局予算ありきと改めて確認できました。このような講演は学校単位だけでなく沖縄県にも聞いてもらい、効率的な予算の配分を考えてもらいたいと思いました。

・研究大会の企画・運営大変お疲れ様でした。公開授業も含め、特別支援教育を学ぶとても良い機会となりました。ありがとうございます。

・中学校からの分科会の発表は、厳しいです。特別支援学級担任は半数が臨任で、しかも1~2年目と経験が浅く、一部の担任の負担となっています。また、研究を行っている担任の学校が複数にまたがるため、時間外労働となっている現状が見られます。担任によっては、支援学級以外に、通常学級の教科を指導している方もおり、発表者を決めることが厳しいです。発表者が決まっても、各学校の現状から、続けて支援学級を受け持つことができず、発表者を変更することもあります。九州大会等の関係もあるかもしれませんが、分科会の数を減らし、役割を減らすなどをして、働き方改革を検討してはいただけませんか。とても負担に感じています。

・名護特別支援学校の職員の皆さん、大会運営や公開授業、本当にありがとうございました。

本校の職員ももっと参加して欲しいと思える研究大会でした。参加しやすくするためには、オンラインも検討してはどうでしょうか。そうすることで、児童生徒下校後参加できる職員もいると思いま

た。※事務局の仕事を増やしてしまう意見でごめんなさい。

・記念講演は、今後の参考となる内容でした。分科会は、交流及び共同学習の視点での実践事例が参考になりました。

・教科別の指導、合わせた指導について、それぞれ、生徒の実態に応じた指導（支援）が大切であることを再認識できた。しかし、インクルーシブ教育については、まだまだこれから具体的に何がどう変わっていくのか、もっと踏み込んだ考え方や方向性を示してほしい。

・私は、今回初めて沖特研に参加させていただいたので、全てが新鮮で新たな発見も多く、実りのあるものとなりました。特に三浦先生の講演は、大変に勉強になりました。ありがとうございました。また、運営スタッフの皆様もありがとうございました。

・大会運営お疲れ様でした。特別支援学校の先生方の子ども達とのふれあい、とても勉強になりました。

・特別支援教育の新しい情報を学ぶ事ができよかったです。今後、評価方法についての研修等があれば参加したいです。知的障がい→県立高校受験希望生徒の授業の取り組み方や数値による評価の仕方など。情緒障がい→通常学級の授業へ参加できず、特別支援学級で5教科の授業と評価についてなど。5教科の教科担任や、特別支援学級担任の専門教科を持つ職員で情緒学級の5教科の授業を行なったりしていますが、学校の状況によっては協力が得られない場合もあります。今回、実践発表を行なった、西原中学校の情緒学級も担任がほぼ見えています、中学校は教科担任制なので授業と評価に限界があると思います。工夫の仕方などを知りたいです。

・公開授業の指導案・実際の授業、記念講演、分科会の司会進行や各提案、質疑応答(協議)、全てにおいてこれまでの研究大会にない大盛況ぶりです。素晴らしいと思います。コロナ禍の対処手段としてオンラインが充実した前回の研究大会にも目を見張ったものですが、やはり、対面によって間近で五感で受ける刺激には敵わないなあと。事務局や会長の参集型開催決断に感謝です。しかしながら、離島から参加すると、旅費やかかる時間、体力の消耗などの負担感が想像していたよりかなり大きいのしかかっています。次年度以降の検討課題として、是非、“ハイブリッド型”開催をお考えいただくと嬉しいです。開催側も参加者もウェルビーイングで持続可能な沖特研をめざして、ご検討方よろしくをお願いします。

・石垣第二中学校の実践発表がとても参考になりました。

・記念講演では名古屋市の先進的な取り組みや内容を聞くことができた。名護特支の先生方お疲れ様でした。

・久しぶりに特支の授業を見ることができて大変勉強になりました。学校の雰囲気も良く生徒にも癒やされました。小学部5年生の「目指せ名人～正しい分に直してみよう～」の授業内容、とても良かったです。早速本校の生徒にも試してみたいと思いました。

・名護特別支援学校の先生方が連携していた取り組みに感動しました。準備や対応など一つ一つ丁寧に準備・実施されていて、少ない職員数で素晴らしいなと思いました。参加できて良かったです。本当にお疲れ様でした。

・初めて沖特研研究大会に参加しました。公開授業の教科指導、記念講演、分科会、とても学びの多い大会でした。特に記念講演は指導要領に沿った新しい特別支援教育のあり方や教科指導、自立活動についての説明、大変勉強になりました。中学校における知的学級の教科指導をより詳しく知りたいと思いました。ありがとうございました。

・講演会が自慢話に聞こえた。

・初めての参加だったが、記念講演、分科会共にとても有意義なものになったし、今後の指導に生かせるものは取り入れていきたいと思った。また機会があったら参加したい。

・運営等お疲れさまでした。当日に至るまでの丁寧な運営の仕方に驚きました。小規模校で人員が限られる中大変だったと思いますが、本当にお疲れさまでした。

ただ、これは沖特研の在り方に関わることで、これだけの研究大会の運営の負担は、今後の働き方改革の視点から見ると改善するところがたくさんあると思います。これは運営する名護特支の先生方への意見ではありません。名護特支の先生方は事務局としての仕事を完璧にこなしたと思います。それとは別に、沖特研の在り方、必要性が問われていると思います。県内外問わず teams や SNS で情報共有したり、オンライン研修が当然となったいま、沖特研の目的にある「特別な教育的支援を必要とする知的障害のある幼児・児童・生徒の教育の発展と、実践研究の推進に寄与する」を達成するためにこの運営の仕方は大変ではないでしょうか。今後、「評議員会や研修を無くして（もっと簡素化して）、研究大会のみにする」など色々提案させていただきます。

・大変勉強になる大会でした。現在、特に、自立活動や道徳について悩み、もっともっと研究・研修が必要だと考え、勉強中ですが、実際問題、先生方の理解や熱量にも差があり、全職員ベクトルで・・とか なかなか難しい状況がありました。ですが、名護特支の先生方のすばらしい実践にたくさんヒントがあり、三浦先生のご講演、分科会での指導助言が大変励みになりました。大きな研究大会の準備等大変ありがとうございました。とてもすばらしい時間が持てたことに、感謝致します。アンケートへの回答が遅れてしまい、すみませんでした。

報告①-2 沖特研研究大会分科会関係者アンケート

1. ご連絡方法について

よい

2. ご連絡内容について

よい

3. 分科会関係者会の実施時期について

よい

4. 分科会関係者会の内容について

(その他お気づきの点・改善点などがございましたらぜひお聞かせください)

- ・皆さんで協力してくださっていたので、安心して役割を行うことができました。
- ・名護特支の先生方の分科会の運営が素晴らしかったです。ありがとうございました。
- ・スムーズだったと思います。お疲れ様でした。
- ・分科会ごとの打ち合わせの時間が少し短いように思いました。少し不安もありましたが、司会の先生が、チャットで連絡を取れるようにしようとおっしゃってくださったので、その後もやり取りができたのが良かったです。ありがとうございました。

5. 研究大会運営についてのご意見・ご感想

- ・マイクはできれば、3つあると助かります。(提案者用、司会用、質問用)
- ・できれば、ハイブリッド型の配信希望いたします(参加可能な方が増えると思います)
- ・久しぶりに多くの参加者が集まって活気のある研修会になったと思います。気温も上がり、暑い中、急遽冷風機も準備していただきありがとうございました。運営の皆様、事前事後、当日の運営等、お疲れ様でした。
- ・三浦先生の講演、かなり痛い話、校長が職員に伝えたい話もあり、さっそく職員に共有しました。大会の開催に尽力いただいた名護特支の校長始め皆さんに感謝です。
- ・円滑な大会運営でした。三浦先生のご講演もあらためて勉強になりました。事務局のみなさん、お疲れ様でした。
- ・分科会関係だけでなく沖特研の評議員も務めています。沖特研の研究大会に向けて、これまで沢山のメールが届いています。もう少し送信するメールの回数を減らせないでしょうか？内容を精査することです。何度もメールが届き、内容も似ているので、探すときにいつ、どの内容で送られたメールかわからず苦勞しました。
- ・次年度へ向けて、提案時のテーマをもう少し、シンプルにしてほしかったです。私の認識不足もあるのですが、色々迷いました。(第7分科会 ICT教育 桑江)
- ・企画・準備・運営等お疲れさまでした。学びの多いすばらしい研究会でした。運営に関してですが、午前中の授業参観の後に校内見学の時間が設定されていましたが、特に校内見学の時間の設定は必要ないかと思いました。分科会については、午後の最後に設定されていましたが、午前の授業参観の後に行い、午後は講演会だけでよいと思いました。
- ・お疲れ様でした。毎回細かく丁寧な対応をしていただき、分かりやすかったです。提案者としての参加の決定が遅れ、報告書も当日のスライド資料も提出が遅れてしまいお手数おかけしました。柔軟に対応していただき本当に感謝です。運営はとても大変だったと思いますが、私はこの学びの多い研究会に参加することができたことを嬉しく思っています。ありがとうございました。

議題①-1 今年度の事業報告 (敬称略)

日時	場所	事業内容(敬称略)		
令和5年 6/22(木) 15:15~ 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	第1回評議員会・研修会①		
		<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制 ●昨年度の事業・会計報告 ●今年度の事業・予算案 ●研究大会について(一次案内) ●諸連絡(輪番確認、全特連について 等) </td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td> 第1回「「 沖縄市における就学支援の取組と課題 」 講師 八幡 昌士(沖縄市教育委員会 指導部 指導課 指導係長) </td> </tr> </table>	議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制 ●昨年度の事業・会計報告 ●今年度の事業・予算案 ●研究大会について(一次案内) ●諸連絡(輪番確認、全特連について 等)
議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制 ●昨年度の事業・会計報告 ●今年度の事業・予算案 ●研究大会について(一次案内) ●諸連絡(輪番確認、全特連について 等) 			
研修	第1回「「 沖縄市における就学支援の取組と課題 」 講師 八幡 昌士(沖縄市教育委員会 指導部 指導課 指導係長)			
7/28(金) 13:15~ 16:30	名護特別 支援学校 オンライン	令和5年度総会・記念講演(研修会②)		
		<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制の承認 ●昨年度の会計報告 ●今年度の事業・予算案の承認 ●研究大会について </td> </tr> <tr> <td>記念 講演</td> <td> 第2回「 これからの特別支援教育の動向 」 講師 加藤 宏昭 (文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官) </td> </tr> </table>	議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制の承認 ●昨年度の会計報告 ●今年度の事業・予算案の承認 ●研究大会について
議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制の承認 ●昨年度の会計報告 ●今年度の事業・予算案の承認 ●研究大会について 			
記念 講演	第2回「 これからの特別支援教育の動向 」 講師 加藤 宏昭 (文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官)			
10/13(金) 15:15~ 16:45	オンライン	第2回評議員会・研修会③		
		<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の運営について ●会計進捗報告 ●日程確認等 </td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td> 第3回「 学校現場で活躍する ASD 当事者から校長先生方へのメッセージ① 」 講師 綿貫 愛子 (NPO 法人東京都自閉症協会 役員) </td> </tr> </table>	議題	<ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の運営について ●会計進捗報告 ●日程確認等
議題	<ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の運営について ●会計進捗報告 ●日程確認等 			
研修	第3回「 学校現場で活躍する ASD 当事者から校長先生方へのメッセージ① 」 講師 綿貫 愛子 (NPO 法人東京都自閉症協会 役員)			
10/19(木) 10/20(金)	徳島県	第62回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会《徳島大会》 【大会主題】 共生社会の中で、夢や志をもち、主体的に活躍する子どもたち ~多様な個性が輝く特別支援教育を目指して~ ・記念講演「 共生社会の形成に向けたこれからの地域協働活動とキャリア発達支援 ~ヒト・コト・モノのつながりと対話を再考する~」 講師 菊池 一文 氏 (弘前大学大学院 教授) ・沖縄からの提案者等 なし		
11/10(金) 15:00~ 16:45	オンライン	沖特研 研究大会分科会関係者会・研修会④		
		<table border="1"> <tr> <td>研修</td> <td> 第4回「 学校現場で活躍する ASD 当事者から校長先生方へのメッセージ② 」 講師 綿貫 愛子 (NPO 法人東京都自閉症協会 役員) </td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●事務局からの説明 ●分科会ごとの打ち合わせ </td> </tr> </table>	研修	第4回「 学校現場で活躍する ASD 当事者から校長先生方へのメッセージ② 」 講師 綿貫 愛子 (NPO 法人東京都自閉症協会 役員)
研修	第4回「 学校現場で活躍する ASD 当事者から校長先生方へのメッセージ② 」 講師 綿貫 愛子 (NPO 法人東京都自閉症協会 役員)			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事務局からの説明 ●分科会ごとの打ち合わせ 			
12/1(金) 13:00~ 17:00	オンライン ※提案者は 現地参加	令和5年度 九州地区特別支援教育研究連盟 第57回研究大会《福岡大会》 【研究主題】 多様な子供たちの可能性を広げる特別支援教育 ~教育的ニーズに応じた教育実践を通して~ ・記念講演「 多様な学びの場における特別支援教育の推進 」 ・沖縄からの提案者等: 照喜名雅乃(大平特支)、志良堂弥(はごろも小学校)		

12/15(金) 9:15~ 16:30	名護特別 支援学校 ※一部オンデ マンド配信予定	第51回 沖縄県特別支援教育研究会 研究大会 【大会主題】沖縄県における持続可能な特別支援教育の質の向上を目指して ～知的障害児の各教科等を通じた多様な学びの保障～ ・記念講演「特別支援における育成すべき資質・能力を育む教育 ～知的障害児の各教科等を中心とした教育のすすめ～ おまけ 8段階による自閉症児の障害特性の見極め」 講師 三浦 光哉(山形大学教職大学院 教授) ・名護特別支援学校 公開授業 ・分科会(計7分科会)
令和6年 2/2(金) 15:15~	オンライン	臨時支部長会 協議 内容 ●沖特研について ●今後の研究会運営について
2/22(木) 15:00~ 16:45	オンライン	第3回評議員会・研修会⑤ 議題 ●研究大会の報告 ●今年度の事業・会計進捗報告 ●次年度の事業・予算案 ●次年度の研究会運営について ●諸連絡(研究集録の配布、役員の名報告) 研修 第5回「学校現場で活躍するASD当事者から校長先生方へのメッセージ③」 講師 綿貫 愛子(NPO 法人東京都自閉症協会 役員)
3月頃	名護特別 支援学校	会計監査 監事 玉城 工(美咲特支 教頭)・平良 功(大平特支 教頭) 事務局引き継ぎ(校内)

臨時支部長会 報告

日時:令和6年2月2日(金)15:15~

参加者:各地区支部長・副支部長、沖特研評議員(任意)

内容:○沖特研について(組織体制、事務局、役員組織の構成、組織の現状など)

○分担金について

(小中学校(那覇市以外):市町村教育委員会 特支:各学校 PTA 会費からの支払いが多い)

○予算について

○旅費等について

○次年度以降の研究会運営について など

- ・各地区(小・中学校)の体制が厳しいこと。→各支部の運営、沖特研の運営に関わること
- ・分科会の在り方について

臨時支部長会 アンケート結果

本研究会運営について

- 次の当番校ということもあって、教諭ではありますが参加させていただきました。どの学校も、発表者の選出や係分担など、負担になっているんだと感じ、その中で、西原中の校長先生の提案には共感するところが多くありました。
- 各地区（小学校・中学校）で運営の継続についての問題があることがわかりました。今後の継続的な運営について、次回の評議員会で考えていきたいと思います。
- 今年度の運営、次年度の計画本当にお疲れ様です。
- 今日の会で出ている意見については、今後検討していく必要があるように思います。
- 事務局の皆様におかれましては、大変お疲れ様です。事務局の運営に対しては感謝しておりますが、小中学校における課題に対して、研究大会の持ち方などは沖縄独自に工夫が必要であると思いました。専門性の高い特別支援学校が主導権を握っていただき、小中学校が学ぶ形が理想と考えます。特別支援教育のニーズが高まる中で研究会は必要であります。持続可能な運営を一緒に考えていきたいと思います。
- 運営の皆様、進行や資料準備または、研究主催など本当にお疲れ様です。
- 事務局の皆さん、お疲れ様でした。参集型の研究会の実施とオンライン会議の活用などにより効率的な運営ができたと思います。

本日の臨時支部長会について

- 年度末の多忙の中、臨時支部長会の準備と運営、本当にお疲れ様でした。
- 本日、小中学校の校長先生からのご意見は本当に切実で貴重なものだと思います。持続可能な研究会のあり方をみんなで時間を作って検討すべきだと思います。
- 事務局の方が前もって資料を送付するなど、丁寧に準備対応してくれたお陰で、スムーズに進められたと思います。ありがとうございました。お疲れさまでした。
- 事務局の皆様におかれましては、大変お疲れ様です。今回の話し合いの中で、中頭地区や島尻地区小中学校における特別支援教育研究会の厳しい現状が伝えられましたが、那覇浦添地区も同じでございます。また、旅費の件ですが、学校割り当て旅費を任意団体の旅費に充てることはできるのでしょうか？現状は予算の余裕もございません。課題は山積しておりますが、このような会を開いていただき、意見や要望を聞いていただけて、感謝申し上げます。お疲れ様でした。
- いつも、運営ありがとうございます。
- 九州大会の旅費について教えてください。
- 令和6年度は国頭地区中学校が提案者となっております。次年度派遣予算としてどれくらい準備しないといけないか知りたいです。例年派遣費は、提案者としてどれくらいかかっていますでしょうか。開催場所にもよると思いますが、教えて頂けると助かります。
- 現場では特別支援学級が増えている中、特別支援教育の経験、専門性が浅い教員が多いのが現状です。私も含めて。しかしながら、これからは全教員が特別支援教育について学び、アップデートしていかなければならないと日頃の学校経営でとても感じます。
- 本地区内での運営も、日々の忙しさの中で、他地区同様なかなか厳しい所もありますが、運営方法をもっとコンパクトにして、近隣校ブロック中心にしたフットワークを生かした取り組みにできないかと考えています。学ぶためには、また予算についても色々出てきそうですが…
- 特別支援学校の皆さんには、「センター的機能」としてお世話になることもあると思います。よろしく申し上げます。
- お疲れさまでした。

○私自身、沖特研についてあまり認識がなく(申し訳ありません)特別支援教育にあまり携わってこなかった事もあり、今年度、島尻地区小学校の会長ということでしたが、地区会員の皆さんにもアドバイスなどが出来なかったと感じています。各学校の先生方からも存続に向けて課題が出されていましたが、私も同じ意見です。支援学級担任になると学校の校内研と個人の研究をしなくてはならず負担が大きいことを感じました。西原中学校の平良校長先生がおっしゃっていた発表の為の研究になってしまわないか気になっています。また、本地区は、事務局や評議員の先生方と学校が遠いためなかなか連携を取ることができていませんでした。そこで、特別支援教育設置校校長会(今年度も開催されましたが)にて校長先生方に再認識してもらうことはできないかと思いました。また、分担金も他の研究会とは違い委員会が負担しているという事も事務局も把握していませんでした。ここも知らせて知的・病弱学級を設置していれば、研究に携わらなくてはいけない事を知らせてはどうでしょうか。というのも今年度、研究会を辞めたい・入りたくないという担任がおり対応したのですが、校長先生の許可があったとの事で退会したという例があったからです。会員数も増え会場を押さえるための経費や日程確認の面でも苦慮している事実もあります。研究会が各自が抱えている課題解決にむけての情報交換の場や新しい手立てとなる方策なら皆さん参加してくれるのではないかと思います。集まった実践例の中から良い取り組みを紹介するなど、もっと気軽な発表になるとよいのではないかと思います。支援教育は沖縄県にとって課題となっている部分が多いかと思いい研究を進めるのは大事だと思いますが、存続のための方策を考えていける事を願います。すみません。長くなりました。

○小中学校からは経験者が少ない中で発表の負担が大きいとの声がありましたが、そのような状況だからこそ人材育成が必要だと思います。沖特研は、実践を持ち寄り、お互いの専門性を高める大切な機会だと考えています。特別支援教育の充実ためには、校長がリーダーシップを発揮することが最も重要だと感じました。

議題①-2 成果と課題

令和5年度 沖縄県の取組の経過と今後の予定

沖縄県特別支援教育研究会
会長 岡越 猛

1 研修・研究活動の計画

期日	活動名
6/22(木)	第1回評議員会・研修会①(参集型+Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)
7/28(金)	令和5年度総会・記念講演(研修会②)(参集型+Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)
10/13(金)	第2回評議員会・研修会③(Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)
11/10(金)	研究大会分科会関係者会・研修会④(Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)
12/15(金)	第51回沖特研研究大会(参集型+一部オンデマンド配信)
2/22(木)	第3回評議員会・研修会⑤(Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)

2 活動の概要

(1) 第1回 評議員会・研修会①(参集型+Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)

講師	八幡 昌士(沖縄市教育委員会 指導主事)	参加人数	47名
実施形式	① 集合研修 ② リモート研修 ③ その他(資料配布等)		
演題	沖縄市の就学支援における課題と取組		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の承認 ・昨年度の事業・会計報告 ・沖特研運営について ・今年度の事業計画 ・今年度の予算・会計 ・今年度の研究大会 ・事務局輪番 ・九特連・全特連について ・研究大会に向けたスケジュール ・全特連功労者の推薦について 		

(2) 令和5年度総会・記念講演(研修会②)(参集型+Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)

講師	加藤 宏昭 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官)	参加人数	224名
実施形式	① 集合研修 ② リモート研修 ③ その他(資料配布等)		
演題	これからの特別支援教育の動向		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の承認 ・昨年度の事業・会計報告 ・今年度の事業計画および予算・会計案 ・沖特研研究大会について ・九特連・全特連について ・研究大会に向けたスケジュール ・全特連功労者の推薦について 		

(3) 第2回評議員会・研修会③(Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)

講師	綿貫 愛子(NPO 法人東京都自閉症協会)	参加人数	43名
実施形式	① 集合研修 ② リモート研修 ③ その他(資料配布等)		
演題	学校現場で活躍するASD当事者から校長先生方へのメッセージ①		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・第51回沖特研研究大会について ・次年度以降の研究會運営 ・会計進捗について ・今後の日程確認 		

(4) 研究大会分科会関係者会・研修会④(Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)

講師	綿貫 愛子(NPO 法人東京都自閉症協会)	参加人数	66名
実施形式	① 集合研修 ② リモート研修 ③ その他(資料配布等)		
演題	学校現場で活躍するASD当事者から校長先生方へのメッセージ②		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・各係の仕事内容 ・研究大会当日 直前打ち合わせ ・分科会マニュアル ・情報の取り扱いについて ・分科会記録用紙 ・分科会ごとの打ち合わせ(ブレイクアウトルーム) ・質疑応答・全体確認 ・事務連絡 		

(5) 第51回沖特研研究大会(参集型+一部オンデマンド配信)

講師	三浦 光哉(山形大学教職大学院 教授)	参加人数	281名
実施形式	①集合研修 2 リモート研修 3 その他(資料配布等)		
演題	特別支援における育成すべき資質・能力を育む教育 ～知的障害児の各教科等を中心とした教育のすすめ～ おまけ 8段階による自閉症児の障害特性の見極め		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業 ・学校見学 ・開会行事及び記念講演 ・第1分科会「各教科等の指導(小学校段階)」 ・第2分科会「各教科等の指導(中学校・高等学校段階)」 ・第3分科会「各教科等を合わせた指導」 ・第4分科会「キャリア教育・進路指導」 ・第5分科会「自立活動」 ・第6分科会「交流及び共同学習」 ・第7分科会「ICT教育」 		

(6) 第3回評議員会・研修会⑤ (Zoom オンライン開催+オンデマンド配信)

講師	綿貫 愛子(NPO 法人東京都自閉症協会)	参加人数	これから開催予定 (参加予定83名)
実施形式	1 集合研修 ②リモート研修 3 その他(資料配布等)		
演題	学校現場で活躍するASD 当事者から校長先生方へのメッセージ③		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・研究大会の報告 ・今年度の事業・会計の進捗報告 ・次年度の事業・予算案 ・次年度の研究大会について ・研究集録について ・役員の氏名報告 		

3 今年度の成果と課題

(1) 今年度の成果

○各事業の実施について

・令和3・4年度においては新型コロナウイルス感染予防の観点から全事業において完全オンラインでの開催となったが、今年度は新型コロナウイルス5類移行を踏まえ、評議員会等はオンラインと参集型のハイブリッド式で開催、研究大会は4年ぶりとなる参集型での開催をすることができた。

・研究大会では、事務局校の授業参観・学校見学の実施、記念講演や各分科会を通して参加者がお互いの顔を見合わせて協議することができる機会となった。

○研究会の運営について

・組織の再編:那覇地区小学校・浦添地区小学校・那覇浦添地区中学校特別支援教育研究会の3支部に分かれていた組織を合併し、令和6年度より「那覇・浦添支部」として再編することを決議(第2回評議員会にて可決)。

・運営の見直し:研修会の在り方や予算の見直し等。

(2) 今後の課題

・コロナ以前、コロナ禍で取り組んできた本研究会運営を踏まえて、持続可能な研究会運営にするため、研究会の体制整備(組織構築)、運営費(予算案等)等の見直しは引き続き喫緊の課題と言える。

・各支部の事情等により、評議員等の選出や研究大会に係る提案者や係等の選出が難しく、研究大会運営に関してさまざまな問題点が出てくる。

・研究会運営にあたって、各学校間における相互理解の啓発、行政や関係諸機関と連携して特別支援教育の発展に寄与していきたい。

・今年度、参集型での大会を実施してみて、参加者にとっては授業参観の実施や記念講演、各分科会への参加を通して協議できる機会となった。一方で研修会参加に係る旅費等の観点からオンライン開催やハイブリッド開催を望む声もある。運営に係る事務局校の負担等の兼ね合いも見ながら今後も実施方法については検討が必要である。

議題 1-3

令和5年度 沖縄県特別支援教育研究会 最終報告書 (2/22進捗)

I 一般会計

収入の部	1,400,653 円
支出の部	878,291 円
差引残高	522,362 円

1. 収入の部

No.	費 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要 ・ 備 考
1	沖特研会費（分担金）	316,800	634,650	9,600	1,070学級（小中597、特支473） 【R4_1056学級 R4年度より14学級増】 ※全市町村・学校から徴収済（10/27現在 100%）
2	全特連分担金	211,200			
3	九特連分担金	97,050			
4	大会資料費（参加費）	197,500	132,000	(65,500)	参加者一人あたり500円（参加者264名 来賓8名）
5	寄付金	0	0	0	
6	繰越金	634,000	634,000	0	
7	その他	0	3	3	利息
	合 計	1,456,550	1,400,653	(55,897)	

※ 分担金納入状況については「【資料】令和5年度 沖特研 分担金納入状況」を参照

2. 支出の部 12/26現在

No.	費 目	予 算 額	決 算 額	残 金	摘 要 ・ 備 考
1	印刷費	100,000	56,199	43,801	大会集録印刷（インク代を含む）
2	報償費	60,000	6,119	53,881	講師謝礼金等（記念講演・評議員会）
3	大会運営費	140,000	26,527	113,473	白紙、役員弁当、盛り花、諸経費
4	通信費	60,000	75,144	△ 15,144	切手、郵送料、zoom契約料等
5	会議費	5,000	665	4,335	湯茶、菓子代
6	旅費	110,000	316,035	△ 206,035	会計監査、講師等旅費、全特連大会視察旅費、九特連派遣費、沖特研研究大会派遣旅費（石垣）
7	事務費	40,000	27,385	12,615	事務用品代
8	全特連分担金	259,000	259,417	△ 417	次年度の徴収額を250/学級とする。 ※振込手数料417円を含む
9	九特連負担金	98,700	98,800	△ 100	※振込手数料100円を含む
10	予備費	582,850	11,000	571,850	※全特連大会参加費・集録費
11	積立費	1,000	1,000	0	次回九特連沖縄大会積立金
	合 計	1,456,550	878,291	578,259	

※1 年度当初は発表者はリモートでの参加であったが、年度途中に対面での参加に変更になったため

II 九特連大会積立金

令和5年度九特連研究大会（沖縄大会）積立金	1,690,896	※令和5年度末までの合計額
-----------------------	-----------	---------------

※ R5年度末の積立金は1,690,896円です。

※ 7年後の九特連沖縄大会への積み立て金となります。

議題①-4 納入状況

令和5年度 沖特研 分担金納入状況 (No.1)

2023/10/23 100%

特別支援学校				市町村教育委員会			
	納入日	金額		納入日	金額		金額
1	名護特別支援学校	5/26	19,250	1	国頭村教育委員会	5/25	1,950
2	美咲特別支援学校	6/6	43,250	2	大宜味村教育委員会	6/5	1,300
3	大平特別支援学校	5/29	31,250	3	東村教育委員会	6/8	650
4	島尻特別支援学校	6/5	37,250	4	今帰仁村教育委員会	6/5	3,900
5	宮古特別支援学校	6/14	13,250	5	本部町教育委員会	6/1	5,200
6	八重山特別支援学校	6/8	7,750	6	名護市教育委員会	6/9	20,800
7	西崎特別支援学校	6/6	25,750	7	宜野座村教育委員会	6/8	1,950
8	沖縄高等特別支援学校	5/24	8,250	8	金武町教育委員会	6/22	5,200
9	はなさき支援学校	6/13	22,250	9	伊江村教育委員会	5/29	1,950
10	やえせ特別支援学校	5/31	1,950	10	伊平屋村教育委員会	5/22	650
11	中部農林高等支援学校	5/23	1,950	11	伊是名村教育委員会	5/25	1,300
12	陽明高等支援学校	6/8	3,750	12	恩納村教育委員会	6/5	4,550
13	南風原高等支援学校	6/5	3,900	13	うるま市教育委員会	5/29	38,350
14	那覇みらい支援学校	6/15	26,750	14	読谷村教育委員会	6/22	8,450
246,550					嘉手納町教育委員会	学校毎納入(No.2参照)	
学級数	特別支援学校 473 小中学校特別支援学級 494 那覇市立小学校特学(知的) 72 那覇市立中学校特学(知的) 31 1070	小中合計 597	15	沖縄市教育委員会	6/26	39,000	
			16	北谷町教育委員会	6/1	6,500	
			17	宜野湾市教育委員会	6/9	26,000	
				北中城村教育委員会	学校毎納入(No.2参照)		
			18	中城村教育委員会	6/12	3,900	
			19	西原町教育委員会	6/22	8,450	
				那覇市教育委員会	学校毎納入(No.2参照)		
			20	浦添市教育委員会	6/14	18,850	
			21	久米島町教育委員会	6/28	5,200	
			22	南大東村教育委員会	該当学級なし		
			23	北大東村教育委員会	5/22	1,300	
			24	豊見城市教育委員会	5/29	13,000	
			25	糸満市教育委員会	6/8	22,100	
			26	南城市教育委員会	6/2	11,700	
			27	八重瀬町教育委員会	5/31	6,500	
			28	与那原町教育委員会	5/26	5,850	
			29	南風原町教育委員会	7/27	6,500	
			30	渡嘉敷村教育委員会	該当学級なし(8/25)		
31	座間味村教育委員会	該当学級なし(7/18)					
32	粟国村教育委員会	5/18	650				
33	渡名喜村教育委員会	該当学級なし					
34	宮古島市教育委員会	6/2	18,850				
35	多良間村教育委員会	5/24	1,300				
36	石垣市教育委員会	6/13	16,900				
37	竹富町教育委員会	7/25	3,250				
38	与那国町教育委員会	5/26	1,300				

議題①-4 納入状況

令和5年度 沖特研 分担金納入状況 (No.2)

2023/10/23 100%

那覇市小学校				那覇市中学校			
	納入日	金額		納入日	金額		金額
1	曙小学校	6/8	1,500	1	安岡中学校	6/5	1,300
2	安謝小学校	5/26	1,300	2	首里中学校	6/2	650
3	城東小学校	6/21	1,150	3	真和志中学校	7/24	650
4	城北小学校	6/30	1,300	4	石田中学校	7/31	1,300
5	城西小学校	6/23	650	5	松城中学校	7/5	650
6	城南小学校	6/1	650	6	那覇中学校	10/18	1,400
7	真嘉比小学校	7/21	1,300	7	上山中学校	5/22	1,300
8	泊小学校	6/23	1,300	8	神原中学校	7/20	1,300
9	大道小学校	5/30	1,950	9	寄宮中学校	9/1	1,300
10	松川小学校	6/20	1,300	10	古蔵中学校	6/26	1,300
11	識名小学校	10/18	1,300	11	小禄中学校	5/19	1,300
12	壺屋小学校	10/19	1,300	12	松島中学校	7/19	1,300
13	若狭小学校	5/19	650	13	城北中学校	7/21	1,300
14	天久小学校	5/19	650	14	若夏分校	9/11	650
15	那覇小学校	6/2	1,300	15	鏡原中学校	7/24	1,950
16	神原小学校	6/7	1,200	16	仲井真中学校	6/6	650
17	真和志小学校	7/25	3,900	17	金城中学校	5/29	650
18	与儀小学校	7/26	1,300	18	石嶺中学校	7/12	1,300
19	城岳小学校	7/20	1,950				
20	天妃小学校	5/22	1,300				
21	開南小学校	7/31	650				
22	小禄小学校	6/22	1,300				
23	高良小学校	8/29	1,300		北中城村小中学校	納入日	金額
24	宇栄原小学校	6/6	1,300	1	北中城小学校	5/26	3,250
25	松島小学校	5/23	1,300	2	島袋小学校		
26	古蔵小学校	6/27	1,300	3	北中城中学校		
27	大名小学校	6/28	650				
28	上間小学校	7/21	1,300				
29	石嶺小学校	6/12	1,300				
30	仲井真小学校	6/7	1,300		嘉手納町小中学校	納入日	金額
31	金城小学校	8/4	1,300	1	嘉手納小学校	5/30	1,300
32	小禄南小学校	6/30	1,950	2	屋良小学校	5/30	1,300
33	真地小学校	5/19	1,300	3	嘉手納中学校	6/13	1,950
34	さつき小学校	6/20	1,300				
35	銘苺小学校	6/14	1,300				
36	垣花小学校	5/26	650				

次年度以降の研究会運営について

議題②-1 会則の変更について(再確認)

●那覇地区小学校・浦添地区小学校・那覇浦添地区中学校教育研究会の支部合併について(令和5年8月25日)

1. 会則の改訂に関する提案

項目	旧	新
第1章総則 (支部) 第4条	本会の支部は知的障害教育を行う各特別支援学校、八重山、宮古、島尻、那覇(小学校)、浦添(小学校)、那覇・浦添(中学校)、中頭、国頭の各地区におく。なお、必要に応じてその他の支部をおくことができる。	本会の支部は知的障害教育を行う各特別支援学校、八重山、宮古、島尻、 <u>那覇・浦添</u> 、中頭、国頭の各地区におく。なお、必要に応じてその他の支部をおくことができる。
附則		この会則は令和6年4月1日から施行する。

2. 支部構成について

- ・支部長
 - ・副支部長
 - ・副支部長
 - ・評議員(2~3名)・・・各地区(小中)の教諭
- } 那覇地区小学校(校長)・浦添地区小学校(校長)、那覇地区中学校特別支援教育研究会代表が輪番で担当する

【那覇・浦添地区 知的障害特別支援学級設置校 役員名簿(例年)】

地区名	区分	役職名	氏名	学校名	職名
浦添	小	支部長			校長
		評議員			教諭
		評議員			教諭
那覇	小	支部長			校長
		評議員			教諭
		評議員			教諭
		評議員			教諭
那覇・浦添地区中学校特別支援教育研究会	中	研究会代表			校長
		評議員			教諭
		評議員			教諭
		評議員			教諭

【R6年度 那覇・浦添支部 役員名簿案】

地区名	区分	役職名	氏名	学校名	職名
那覇・浦添	小	支部長		浦添地区小学校	校長
	中	副支部長		那覇地区中学校 特別支援教育研究会代表	校長
	小	副支部長		那覇地区小学校	校長
	小	評議員			教諭
	中	評議員			教諭

3. 確認事項

- ①組織の再編は令和6年度からとする。
- ②支部の呼称は「那覇・浦添支部」とする。
- ③令和10年度までの分科会割当は議決済なので変更はしない。
令和11年度以降に新地区名(那覇地区小学校・那覇地区中学校)で表記する。
- ④次年度以降提案する分科会係(提案者以外)の表記は「那覇地区小学校・那覇地区中学校」と表記する。
- ⑤分担金の納入は現行通りで行う。

次年度以降の研究会運営について

議題②-2 沖特研会計等について(再確認)

●旅費等について

県内旅費 学校割り当て旅費、各支部・学校で対応する

令和3年度第1回評議員会について下記の内容が決議されている。

「県内(本島内)については研究会から旅費を支給しないこととする。」※別紙〇ページ参照

次年度より、関係機関へ送付する旅費についての公文(お願い)の表記を一部変更する。

「県内で実施する沖特研に係る事業について、研究会からは旅費を支給しないこととする。」※別紙〇ページ参照

(令和3年度以前)

※離島の特別支援学校は学校割り当て旅費から支給。

※離島の小中学校については教育長から指定旅費を教育事務所を通して令達してもらっていた。

→予算の申請はしているが、令達されるかが定かではない。

県外派遣旅費 県からの予算令達がなければ原則学校割り当て旅費、各支部・各学校で対応する。

(一部事務局より補助(参加費など))

※九特連研究大会は例年特支から1名、小中から1名の提案者を派遣します。

その他指導助言者の派遣が1名あります。

令和6年度〈佐賀大会〉

提案者:特別支援学校 1名(美咲特支)

市町村立小中学校 1名(国頭地区中学校)

指導助言者:1名(県教育庁指導主事※他県同様)

各市町村長
各市町村教育委員会教育長
各市町村立小・中学校長
各県立特別支援学校長
各関連機関の長

} 殿

沖縄県特別支援教育研究会
会長 岡越 猛



令和6年度沖縄県特別支援教育研究会への参加のための旅費について(お願い)

時下、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本研究会へのご理解とご支援を頂きまして誠にありがとうございます。

さて、沖縄県特別支援教育研究会(沖特研)は、県内の小中学校の特別支援学級及び特別支援学校の教員等で構成する特別支援教育の研究団体です。知的障害を有する児童生徒の教育に携わる教職員の資質向上に向けて研修会や研究大会を開催しております。本研究会の事務局校は本島内の知的障害教育の特別支援学校が2年ずつの輪番で担当しており、令和5、6年度は県立名護特別支援学校が事務局校となり各会合は名護市にて開催されることとなります。令和6年度は評議員会及び総会はオンラインにて開催、研究大会においては参集型での開催を計画しています。

つきましては、本会及びその活動の主旨をご理解いただき、令和6年度の沖特研の研究大会への貴下職員等を派遣するための旅費の確保及び捻出のご配慮をお願いいたします。

記

1. 沖特研旅費

令和6年度から県内で実施する沖特研に係る事業について、研究会からは旅費を支給しないこととする

2. 理由

(1) 沖特研分担金(会費)収入減のため

沖情研が分かれたため年間約150,000円の減収となった。(令和3年度より会計も完全に分かれている)

(2) 評議員会等をオンライン開催にすることで出張の回数を減らしている。

(3) 研究大会の参加費について例年1000円徴収しているところを500円とし、負担を減らしている。

問い合わせ先

沖縄県特別支援教育研究会事務局(沖縄県立名護特別支援学校内)

事務局長 諸見里 知恵(もろみざと ちえ) 会計担当 田名 温(だな あつし)

TEL:0980-52-0505

FAX:0980-54-1486

E-mail:okitokuken@as.open.ed.jp



沖縄県
特別支援教育
研究会

各市町村長
各市町村教育委員会教育長
各市町村立小・中学校長
各県立特別支援学校長
各関連機関の長



沖縄県特別支援教育研究会
会長 岡越 猛



令和5年度沖縄県特別支援教育研究会への参加のための旅費について(お願い)

時下、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本研究会へのご理解とご支援を頂きまして誠にありがとうございます。

さて、沖縄県特別支援教育研究会(沖特研)は、県内の小中学校の特別支援学級及び特別支援学校の教員等で構成する特別支援教育の研究団体です。知的障害を有する児童生徒の教育に携わる教職員の資質向上に向けて研修会や研究大会を開催しております。本研究会の事務局校は本島内の知的障害教育の特別支援学校が2年ずつの輪番で担当しており、令和5,6年度は県立名護特別支援学校が事務局校となり各会合は名護市にて開催されることとなります。令和4年度までは、各会合はオンラインにて開催されていましたが、令和5年度からはコロナ禍以前に戻し、対面式での開催を計画しています。

つきましては、本会及びその活動の主旨をご理解いただき、令和5,6年度の沖特研の研究大会、総会、評議員会への貴下職員等を派遣するための旅費の確保及び捻出のご配慮をお願いいたします。

なお、本研究会の旅費に関する取り決めは令和3年度第1回評議員会にて、下記の通りの内容が決議されていることを再度ご連絡いたします。

記

1. 沖特研旅費

令和3年度から県内(本島内)については研究会からは旅費を支給しないこととする

2. 令和2年度まで

- (1) 本島内は1人500円(遠隔地は1,000円)を研究会から支給
- (2) 離島の特別支援学校は学校割り当て旅費から支給(公費支給)

3. 理由

- (1) 沖特研分担金(会費)収入減のため

沖情研が分かれたため年間約150,000円の減収となった。(令和3年度より会計も完全に分かれた)

- (2) 出張する先生の自己負担が大きいため

沖特研からの旅費500円では、実際には赤字になることが多い。(自宅の場所によるが、県費で算定した場合の半部以下となる場合が多い)

県費と同等の旅費を計算することは難しい。(通勤手当との相殺や公用車使用等を事務局では把握できないため)

また、従来方式(沖特研から1人500円旅費支給)してしまうと公費から旅費を支給できない。(公文に「沖特研が旅費を別途支給する」と記載がある場合、2重となるので公費から旅費を支給できない)

問い合わせ先

沖縄県特別支援教育研究会事務局(沖縄県立名護特別支援学校内)

事務局長 諸見里 知恵(もろみざと ちえ) 会計担当 田名 温(だな あつし)

TEL: 0980-52-0505 FAX: 0980-54-1486 E-mail: okitokuken@as.open.ed.jp



沖縄県
特別支援教育
研究会

議題③ 次年度の事業・予算について

● 次年度の事業計画について

令和4年度の資料より

	第1回 評議員会	総会	第2回 評議員会	分科会 関係者会	研究大会	第3回 評議員会
日程	5-6月頃	7月頃	10月頃	10-11月頃	11-12月頃	2月頃
議題 (定例)	・役員体制 ・事業報告 ・会計報告 ・事業計画 ・予算案 ・研究大会	・役員承認 ・事業報告 ・会計報告 ・事業計画 ・予算案 ・会計進捗 ・研究大会	・研究大会 ・会計進捗 ・日程確認	分科会 打ち合わせ	開会行事	・大会報告 ・反省 ・事業報告 ・会計報告 ・事業計画 ・予算案
議題 (その他)	・沖特研運営 について ・九特連、全 特連について	・九特連、全 特連について	・次年度の研 究会運営に ついて ・九特連につ いて			・引継ぎにつ いて
研修・ 研究事業	研修会	記念講演	研修会	研修会	公開授業 記念講演 分科会	研修会
備考	九特連研究大 会の準備	8月九特連研 究大会予定 (R6年度)				

- ・重複する議題はあるが、総会決議のため事前に評議員会での意見集約と議論が必要である。
- ・分担金の徴収方法を考えると、その都度、納入状況を確認する機会が必要である。
- ・次年度以降の運営の改善策について協議する機会が必要である。
- ・反省や意見を運営に反映させるため、研究大会後の評議員会も重要である。

次年度以降も例年同様の設定で事業を計画する

● 令和6年度事業実施方法について

- ・令和3年度、4年度においては新型コロナウイルス感染予防の観点から完全オンラインでの開催となった。
- ・令和5年度は新型コロナウイルス5類移行を踏まえ、評議員会等はオンラインと参集型のハイブリッド式で開催、研究大会は参集型での開催。

・次年度案

	第1回 評議員会	総会	第2回 評議員会	分科会 関係者会	研究大会	第3回 評議員会
日程	5-6月頃	7月頃	10月頃	10-11月頃	11-12月頃	2月頃
実施方法	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	参集型	オンライン
研修・ 研究事業	研修会※	記念講演	研修会※	研修会※	記念講演 分科会	研修会※

事務局で検討している事項

- ・評議員会等において出張扱いにならない(旅費が出ない)支部もあるのでできるだけオンラインを活用したい。
- ・研究大会においては、公開授業、記念講演として直接講師からのご講演、分科会にて顔を見合わせて協議ができる機会としたい。また予算の関係から研究大会参加費の徴収が必須となるため。→参集型
- ・特に、第1回評議員会では議題の数により、議題にかける時間を多く設けられるようにする。

※評議員会毎における研修会をどうするか。

→研修会を実施しなくてもよいという意見が多数であれば、なくしても良いのでは。

(総会と研究大会の年2回に。)

→会終了後のアンケートより研修会必要性の有無をご回答いただきたいです。

☆予算の関係から

- ・旅費および謝礼金をできるだけ抑えた研修会の実施。
- ・研究大会参加費について→持続可能な研修会のため、参集型で研究会を行うなら参加費徴収は必要。

●予算について

分担金(R5年度は321,000円) + 研究大会参加費(500円×人数分) + (前年度繰越金)で研究会運営にあたる。

〈支出内訳〉

- ・Zoom 契約料金
- ・通信費 (分担金請求および予算計上依頼、分科会関係者への依頼公文等の郵送代)
- ・全特連理事会等への派遣 ・九特連、全特連研究大会派遣 補助等
- ・研修会講師旅費及び謝礼金 (県外講師招聘含む)
- ・研究大会運営費
- ・研究紀要の製本
- ・事務費

} 研究大会参加費

(・九特連沖縄大会に向けた積み立て)

議題③-1 次年度の事業計画(R6年2月現在) (敬称略)

日時	場所	事業内容(敬称略)		
令和6年 6/14(金) 15:15~ 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	第1回評議員会・研修会①		
		<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制 ●昨年度の事業・会計報告 ●今年度の事業・予算案 ●研究大会について(一次案内) ●諸連絡(輪番確認、全特連について等) </td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td>第1回「未定」 講師</td> </tr> </table>	議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制 ●昨年度の事業・会計報告 ●今年度の事業・予算案 ●研究大会について(一次案内) ●諸連絡(輪番確認、全特連について等)
議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制 ●昨年度の事業・会計報告 ●今年度の事業・予算案 ●研究大会について(一次案内) ●諸連絡(輪番確認、全特連について等) 			
研修	第1回「未定」 講師			
7/26(金) 13:15~	名護特別 支援学校 オンライン	令和5年度総会・記念講演(研修会②)		
		<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制の承認 ●昨年度の会計報告 ●今年度の事業・予算案の承認 ●研究大会について </td> </tr> <tr> <td>記念 講演</td> <td>第2回「特別支援教育に係る国の動向について(仮)」 講師 加藤 典子 氏 (文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)</td> </tr> </table>	議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制の承認 ●昨年度の会計報告 ●今年度の事業・予算案の承認 ●研究大会について
議題	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の役員体制の承認 ●昨年度の会計報告 ●今年度の事業・予算案の承認 ●研究大会について 			
記念 講演	第2回「特別支援教育に係る国の動向について(仮)」 講師 加藤 典子 氏 (文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)			
8/2(金)	佐賀県	令和6年度 九州地区特別支援教育研究連盟 第58回研究大会《佐賀大会》 【研究主題】共生社会の中で自分らしく主体的に活動する子どもの育成を目指して ・記念講演「未定」 講師 田中 良広 氏 (帝京平成大学 人文社会学部 児童学科 小学校・特別支援コース 教授) ・沖縄からの提案者等:美咲特支、国頭地区中学校		
10/11(金) 15:15~ 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	第2回評議員会・研修会③		
		<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の運営について ●会計進捗報告 ●日程確認等 </td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td>第3回「未定」 講師</td> </tr> </table>	議題	<ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の運営について ●会計進捗報告 ●日程確認等
議題	<ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の運営について ●会計進捗報告 ●日程確認等 			
研修	第3回「未定」 講師			
11/8(金)	名護特別 支援学校 オンライン	沖特研 研究大会分科会関係者会・研修会④		
		<table border="1"> <tr> <td>研修</td> <td>第4回「未定」 講師</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●事務局からの説明 ●分科会ごとの打ち合わせ </td> </tr> </table>	研修	第4回「未定」 講師
研修	第4回「未定」 講師			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事務局からの説明 ●分科会ごとの打ち合わせ 			
11/21(木) 11/22(金)	福井県	第63回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会《福井大会》 【大会主題】変化する社会の中で 自分らしさを生かし 生き生きと輝く子どもたち ～教育的ニーズに基づいた 一人一人の育ちを求めて～ ・記念講演「一人一人が自分を表現できる未来へ」 講師 前田 鎌利 氏 (書家/プレゼンテーションクリエイター) ・沖縄からの提案者等 なし		
12/13(金) 9:30~ 16:45	名護特別 支援学校 ※一部オンデ マンド配信予定	第51回 沖縄県特別支援教育研究会 研究大会 【大会主題】沖縄県における持続可能な特別支援教育の質の向上を目指して ～知的障害児の各教科等を通した多様な学びの保障～ ・記念講演「未定」 講師 綿貫 愛子 氏 (NPO 法人東京都自閉症協会 役員) ・名護特別支援学校 公開授業 ・分科会(計7分科会)		
2/21(金) 15:15~ 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	第3回評議員会・研修会⑤		
		<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の報告 ●今年度の事業・会計進捗報告 ●次年度の事業・予算案 ●次年度の研究大会について ●諸連絡(研究集録の配布、役員の氏名報告) </td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td>第5回「未定」 講師</td> </tr> </table>	議題	<ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の報告 ●今年度の事業・会計進捗報告 ●次年度の事業・予算案 ●次年度の研究大会について ●諸連絡(研究集録の配布、役員の氏名報告)
議題	<ul style="list-style-type: none"> ●研究大会の報告 ●今年度の事業・会計進捗報告 ●次年度の事業・予算案 ●次年度の研究大会について ●諸連絡(研究集録の配布、役員の氏名報告) 			
研修	第5回「未定」 講師			
3月頃	名護特別 支援学校	会計監査 監事(美咲特支 教頭)・(大平特支 教頭) 事務局引き継ぎ(美咲特支)		

令和6年度 沖縄県特別支援教育研究会 予算書(案)
(九特連負担金、全特連分担金を含む)

収入の部	1,331,055	円
支出の部	1,331,055	円
	0	円

(残金は次年度に繰越)

I 一般会計

1. 収入の部

	科 目	予 算 額	摘 要	備 考
1	沖特研会費(分担金)	321,000	300円×学級数(知的)	1,070学級(小中597、特支473) ※R5の学級数で試算
2	全特連分担金	267,500	250円×学級数(知的)	R4年度途中に 300円→250円/学級 の変更あり
3	九特連負担金	99,300	150円×学級数(知的)	5学級以上の学校は一律750円 小中597×150 特別支援13校×750
4	大会資料費(参加費)	132,000	参加者一人あたり500円	参加人数:264人(事務局校職員を含む) ※R5年度の大会実績で試算
5	寄 付 金	0		
6	繰 越 金	511,255		R5年度より(R6.1.17現在)
	合 計	1,331,055		

※ 沖特研会費(分担金)・全特連分担金・九特連負担金について
小・中特別支援学級は各市町村教育委員会より徴収(那覇市は各小中学校)
特別支援学校は各学校より徴収

2. 支出の部

	科 目	予 算 額	摘 要	備 考
1	印刷費	80,000	大会要項、研究収録	
2	報償費	60,000	講師謝礼金	
3	大会運営費	50,000	白紙、役員弁当、諸経費	盛り花は予算の都合上、削除
4	通信費	65,000	切手、郵送料、zoom契約料等	
5	会議費	5,000	湯茶、菓子代	
6	旅費	200,000	会計監査、全特連大会旅費(会長)、 九特連大会旅費(提案者等)、講師等 旅費	※R3年度より原則として 県内旅費について は支出していない ※全特連福井大会、九特連佐賀大会
7	事務費	35,000	トナー、封筒、事務用品代	
8	全特連分担金	267,500	250円×学級数	※R4年度に規約改正300円→250円 ※R5納入依頼より(R5/6/15付)
9	九特連負担金	99,300	150円×学級数 ※5学級以上の学校は750円	※R5納入依頼より(R5/6/23付)
10	予備費	468,255		
11	積立費	1,000	R6年度九特連沖縄大会積立金	
	合 計	1,331,055		

II 九特連大会積立金

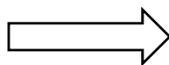
次回九特連積立金(令和6年度)	令和5年度までの 積立金	令和6年度積立金	令和5年度時点での合計額
	1,690,890	1,000	1,691,890

※ 令和3年度より沖情研は会計が完全に別に分かれる。

議題④ 次年度以降の研究大会運営について

議題④-1 分科会のテーマについて

	R5年度 分科会名
1	各教科等の指導 (小学校段階)
2	各教科等の指導 (中学校・高等学校段階)
3	各教科等を合わせた指導
4	キャリア教育・進路指導
5	自立活動
6	交流及び共同学習
7	課題別テーマ(R5はICT教育) 自閉症支援・早期教育・寄宿舍指導・ICTほか



	改訂案(R6.2月)
1	各教科の指導 (小学校段階)
2	各教科の指導 (中学校・高等学校段階)
3	領域等の指導/ 各教科等を合わせた指導
4	キャリア教育・進路指導
5	自立活動
6	交流及び共同学習
7	原則設定しない ※事務局校が必要に応じて

〈提案内容〉

・令和6年度、上記のテーマで分科会を運営する。

第1～3分科会について

・第1分科会及び第2分科会は「各教科の指導」とし、各教科等にふくまれていた「領域等の指導（特別の教科道徳・外国語活動・特別活動・総合的な学習（探求）の時間）」は第3分科会の「各教科等を合わせた指導」と合わせる。※自立活動は独立した分科会があるため含まない。

（理由）

- ・「各教科等を合わせた指導」は知的障害のある児童生徒に対して効果的な指導を進めるため、特に必要のあるときは各教科等を合わせて授業を行うことができるとされていることから知的障害教育の特色ある指導の形態といえる。しかし、今次の学習指導要領により、知的障害教育において各教科等における資質・能力を確実に育成するため、より一層「教科別指導」が重視されていることから、県内知的特別支援学校において指導の形態として「各教科等を合わせた指導」を実践している学校が減少している。したがって、第3分科会の取り扱いについて再考する必要がある。
- ・領域等の指導は、各教科等を合わせた指導から教科別指導を重視する教育課程の再編成と相まって、重要性を増している。領域等の指導を第3分科会に取り入れることで、領域等の指導の在り方や方法についても焦点を当てて、協議できる機会となる。

※九特連の提案割当て「第3分科会」と割り当てられた場合（令和10・11年度予定）は、他の県と調整できるよう九特連事務局に現段階から相談する。分科会の交代によって提案割当てに変更があった場合は、変更後のテーマを担当する支部が九特連提案を担うこととする。

第7分科会について

・現在、課題別テーマの1枠は当該年度の事務局が担い、もう1枠を事務局が課題に応じて依頼することになっているが（令和7、8年度においてはそれぞれ八重山特支と島尻特支が割り当てられており、もう一枠の提案者を事務局が探すことになっている）、新たに分科会テーマを設定するよりも、提案者輪番が既に決まっている既存の6分科会に焦点を当て、協議を進めていきたいとのことから、原則、第7分科会は設定しないこととする。

・昨今の教育的課題等により、第7分科会の設置が特に必要と事務局校が判断する場合は、テーマ設定及び提案者選出・依頼を事務局が行い、評議員会等で提案する。

※懸念される九特連との関係について、九特連の分科会において第6・7分科会は開催県が独自にテーマ設定することになっており、沖特研のテーマとは異なる場合がある。九特連分科会において本県が第6・7分科会を割り当てられたら、テーマに応じてその年の事務局校が対応にあたる。（事務局校からの発表者の選出、または小中発表者への依頼。）

議題④ 次年度以降の研究大会運営について

議題④-2 研究大会 分科会の役割分担について

- ①令和10年度までの分科会提案割当はこれまでの評議員会や総会等で決議されているため変更はしない。
 (旅費は基本的に各所属で対応する。) ※網掛け(グレー)は、九特連の提案割当。

【参考】令和10年度までの分科会提案割当

分科会名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回
各教科等の指導 (小学校段階)	島尻特支	はなさき支援	西崎特支	大平特支	名護特支	八重山特支
	中頭地区 小学校	宮古地区 小学校	中頭地区 小学校	国頭地区 小学校	島尻地区 小学校	那覇地区 小学校
各教科等の指導 (中学校・高等学校段階)	宮古特支	島尻特支	みらい支援	高等特支	美味特支	やえせ高支
	中頭地区 中学校	国頭地区 中学校	宮古地区 中学校	中頭地区 中学校	島尻地区 中学校	中頭地区 中学校
各教科等を合わせた指導	大平特支	大平特支	大平特支	西崎特支	みらい支援	宮古特支
	国頭地区 小学校	浦添地区 小学校	那覇地区 中学校	八重山地区 小学校	那覇地区 小学校	島尻地区 小学校
キャリア教育・進路指導	名護特支	高等特支	はなさき支援	中野農林 高支	島尻特支	福明高支
	八重山地区 中学校	中頭地区 中学校	那覇地区 小学校	中頭地区 小学校	中頭地区 中学校	那覇地区 中学校
自立活動	美味特支	美味特支	島尻特支	名護特支	西崎特支	みらい支援
	島尻地区 中学校	中頭地区 小学校	八重山地区 中学校	那覇地区 中学校	国頭地区 小学校	中頭地区 小学校
交流及び共同学習	高等特支	八重山特支	南風原 高支	みらい支援	大平特支	美味特支
	浦添地区 小学校	島尻地区 小学校	国頭地区 小学校	那覇地区 小学校	八重山地区 小学校	国頭地区 小学校
課題別テーマ <small>※各校別支援、単科教育、 専修指導、ICTほか</small>	西崎特支	名護特支	八重山特支	島尻特支	はなさき支援	はなさき支援
	名護特支	事務局が課題に応じて依頼				
	名護特支		美味特支		はなさき支援	
	R5・6課題別テーマ 「ICT」					

- ②提案者以外の分科会役割分担について、宮古地区小中学校・八重山地区小中学校は旅費の捻出が一層難しいため、係の割り振りは行わない。→事務局校が所在する支部に協力していただく。
 ※離島地区の特別支援学校はどうか。

今年度の研究大会 分科会役割分担(支部)

分科会	テーマ	提案①	提案②	司会	記録	運営
		特別支援学校	小・中学校			
1.各教科等の指導 (小学校段階)	各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別の指導の在り方	島尻特支	中頭地区 小学校	はなさき支援	島尻地区 小学校 島尻地区 中学校	島尻地区 小学校 〈本連連影〉 名護特支
2.各教科等の指導 (中学校・高等学校段階)	各学校間の学びの接続を意識した教科別の指導の在り方	宮古特支	中頭地区 中学校	大平特支	国頭地区 小学校 国頭地区 中学校	美味特支 〈本連連影〉 名護特支
3.各教科等を合わせた指導	生活年齢に応じた生活に必要な生きる力の育成を目指した各教科等を合わせた指導	大平特支	国頭地区 小学校	みらい支援	那覇地区 小学校 那覇地区 中学校	宮古地区 中学校 〈本連連影〉 名護特支
4.キャリア教育・進路指導	義務教育段階からの一貫したキャリア教育の充実	名護特支	八重山地区 中学校	美味特支	国頭地区 中学校 中頭地区 小学校	国頭地区 小学校 〈本連連影〉 名護特支
5.自立活動	一人ひとりの教育的ニーズに応じた知的障害児に必要な自立活動の指導	美味特支	島尻地区 中学校	八重山特支	中頭地区 小学校 中頭地区 中学校	はなさき支援 〈本連連影〉 名護特支
6.交流及び共同学習	共生社会の実現に向けた交流及び共同学習	高等特支	浦添地区 小学校	西崎特支	那覇地区 小学校 浦添地区 小学校	高等特支 〈本連連影〉 名護特支
7.ICT教育	社会生活や日常生活への活用を促すICT教育に係る教員の質の向上	西崎特支	名護特支	島尻特支	八重山地区 小学校 島尻地区 中学校	那覇地区 中学校 〈本連連影〉 名護特支

議題④-4 令和10年度までの提案割当(R5年度総会にて議決済み)

【参考】令和10年度までの分科会提案割当

	分科会名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	分科会名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和元年度～令和10年度 割り当て実績					
		第48回	中止	第49回	九特連(沖縄大会) 第50回		第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	支部・校種	R5年度数	提案枠			
1	日常生活の指導・寄宿舎指導・自立活動	西崎特支	中止	八重山特支	九特連の分科会に準ずる(別紙参照)	分科会再編	各教科等の指導(小学校段階)	島尻特支	はなさき支援	西崎特支	大平特支	名護特支	八重山特支	国頭小	45	8	5	
		美咲特支		国頭地区中学校				中頭地区小学校	宮古地区小学校	中頭地区小学校	国頭地区小学校	島尻地区小学校	那覇地区小学校					国頭中
2	生活単元学習	美咲特支		名護特支			宮古特支	各教科等の指導(中学校・高等学校段階)	宮古特支	島尻特支	みらい支援	高等特支	美咲特支	やえせ高支	中頭小	151	11	
		那覇地区小学校		島尻特支			中頭地区中学校		中頭地区中学校	国頭地区中学校	島尻地区中学校	中頭地区中学校	中頭地区中学校	中頭中				72
3	作業学習・キャリア教育	高等特支		宮古特支			各教科等を合わせた指導	大平特支	大平特支	大平特支	西崎特支	みらい支援	宮古特支		浦添小	20	3	
		大平特支		西崎特支				国頭地区小学校	浦添地区小学校	那覇地区中学校	八重山地区小学校	那覇地区小学校	島尻地区小学校	那覇小				69
4	教科別指導	はなさき特支		美咲特支			キャリア教育・進路指導	名護特支	高等特支	はなさき支援	中部農林高支	島尻特支	陽明高支		那覇中	40	4	
		国頭地区中学校		島尻地区小学校				八重山地区中学校	中頭地区中学校	那覇地区小学校	中頭地区小学校	中頭地区中学校	那覇地区中学校	那覇地区中学校				島尻小
5	自閉症・発達障害への支援	名護特支		高等特支			自立活動	美咲特支	美咲特支	島尻特支	名護特支	西崎特支	みらい支援	宮古小	21	4	2	
		宮古地区小学校		大平特支					島尻地区中学校	中頭地区小学校	八重山地区中学校	那覇地区中学校	国頭地区小学校					中頭地区小学校
6	交流および共同学習	宮古特支	はなさき支援	交流及び共同学習	高等特支	八重山特支	南風原※高支	みらい支援	大平特支	美咲特支	八重山小	22	4	2				
		島尻地区中学校	那覇地区中学校		浦添地区小学校	島尻地区小学校	国頭地区小学校	那覇地区小学校	八重山地区小学校	国頭地区小学校					八重山中	11	2	
7	早期教育	八重山特支	美咲特支	課題別テーマ 自閉症支援・早期教育・寄宿舎指導・ICTほか	西崎特支	名護特支	八重山特支	島尻特支	はなさき支援	はなさき支援	名護特支	37	7					
		伊波幼稚園	のびる保育園		名護特支※	事務局が課題に応じて依頼				美咲特支				はなさき支援				
事務局		島尻特支	大平特支	名護特支		美咲特支		はなさき支援										

支部・校種	R5年度数	提案枠
国頭小	45	5
国頭中	24	3
中頭小	151	5
中頭中	72	6
浦添小	20	3
那覇小	69	5
那覇中	40	4
島尻小	72	5
島尻中	30	3
宮古小	21	2
宮古中	11	2
八重山小	22	2
八重山中	11	2
名護特支	37	7
美咲特支	85	8
はなさき支援	43	6
高等特支	15	5
大平特支	61	8
島尻特支	73	7
みらい支援	52	4
西崎特支	50	6
宮古特支	25	5
八重山特支	14	5
中部農林高支	3	1
陽明高支	6	1
南風原高支	6	1
やえせ高支	3	1

【作成要領】

- 提案者の割り当てにおいては、支部の学級数や割り当て実績(右表)を参照し配分する
- 各分科会において、小・中学校と特別支援学校の提案を一枠ずつ配分する
- 事務局を交代した年度に、古い順から2年度分を削除し新たに2年度分を追加して提案する

【備考】

- 令和8年度までの提案者は、昨年度までに議決済み
- 提案以外(司会・記録・運営)については別紙にて割り当て
- 編みかけのセルの提案者は、同年度に開催される九特連・全特連研究大会の提案を兼ねる(但し、※印については開催県がテーマを設定することとなり現時点でテーマは決まっていない)
- 令和2年度の研究大会は中止のため実績としてカウントしないが、令和4年度の九特連(沖縄大会)はカウントする
- 課題別テーマについては、すでに提案が決定している学校(R5西崎・R6名護・R7八重山・R8島尻)と相談し、前年度の事務局(事務局交代の年度は後任の事務局とも相談)が決定する
- 令和9年度以降の課題別テーマの1枠は当該年度の事務局が担い、もう1枠は事務局が課題に応じて依頼するものとする
- 令和3年度第3回評議員会で分科会のテーマを再編(令和5年度から開始)
- 令和5年度九特連研究大会において第7分科会のテーマが「人材育成」となったためはごろも小学校が提案を行う。したがって中頭地区小学校に提案割り当て実績1カウント追加する
- 令和6年度の九特連提案は佐賀県事務局の意向により提案割当に変更があったため、提案割当に変更を加える。R6年度網かけ支部(国頭地区中学校、美咲特支)に提案実績として2カウントする

R5・6課題別テーマ
「ICT」

議題⑤ 研究大会 分科会の持ち方について

現在

- ・第1～7分科会設置。
- ・提案者は分科会の内容に沿った実践・取り組みを見開き2ページにまとめ、当日20分で発表。
- ・各分科会、提案者は2名。指導助言者1名。
そのほか司会・記録・運営の係を各支部に割り当て進行。
- ・今年度、各提案者は20分の発表、15分の質疑応答、分科会の後半で分科会の内容に沿った指導助言を30分程度いただく。
- ・参加者は提案者や指導助言者の発表を聞いて、感想を述べたり質問をしたりする。

次年度案 分科会提案割当はそのまま活用する。p31参照。

- ・提案割当になっている支部が分科会のテーマに沿った実践事例をいくつかまとめてもってくる。
(実践内容や取り組む上で困っていること・悩みや教材の紹介などを記入できるようにする。)
※様式例等は次年度提案。
- ・参加者にも自分の実践事例や実践上の悩み等を持ってきていただくよう呼びかけはする。(任意)
- ・持ち寄った実践事例や分科会の協議の柱(事務局が提案)を通して、協議を深める。



☆各学校・参加者が実践するうえで困っていることや悩みを共有したり様々な実践事例に触れたりし、今後の指導のヒントを得る。

☆指導助言者には、分科会のテーマに沿った内容の講話をしていただき、協議の様子等から指導助言をいただく。

※九特連での提案について p31参照。

- ・九特連での提案割当の輪番はそのままにする。
- ・九特連での提案を兼ねる支部は、沖特研での提案は九特連提案の様式のままでもよい。

次年度やってみて、その後アンケート等を通して
令和7年度以降どのように分科会運営を行うかを検討する

連絡事項① 沖特研・九特連事務局輪番の確認(R5年度総会にて議決済み)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
沖特研	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回
	名護	名護	美咲	美咲	はなさき	はなさき	沖高特	沖高特
九特連	第57回	第58回	第59回	第60回	第61回	第62回	第63回	第64回
	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄
	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度	令和19年度	令和20年度
沖特研	第59回	第60回	第61回	第62回	第63回	第64回	第65回	第66回
	西崎	西崎	島尻	島尻	那覇みらい	那覇みらい	大平	大平
九特連	第65回	第66回	第67回	第68回	第69回	第70回	第71回	第72回
	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄
	令和21年度	令和22年度	令和23年度	令和24年度	令和25年度	令和26年度	令和27年度	令和28年度
沖特研	第67回	第68回	第69回	第70回	第71回	第72回	第73回	第74回
	名護	名護	美咲	美咲	R10新設校	R10新設校	はなさき	はなさき
九特連	第73回	第74回	第75回	第76回	第77回	第78回	第79回	第80回
	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄

※過去の開催校：平成10年度(全特連・九特連)大平、平成18年度(九特連)西崎、平成26年度(九特連)美咲、令和4年度(九特連)大平

※網掛け部分：九特連大会の年及び第60回・70回の沖特研記念大会の年となります

【作成要領】

- (1) 宮古特支、八重山特支、高等支援(南風原・陽明・やえせ・中農)は事務局輪番より除く
- (2) 九州大会(大会日程・全体会場の検討及び決定、旅行社との調整等)は開催2年前から準備が必要なため、当該年度の事務局は開催年度の評議員と協力をしながら準備を進める
- (3) 令和13年度までの県立特別支援学校編成整備計画より、令和10年度に中頭地区に知的障害特別支援学校を新たに開校予定とある為、那覇みらい支援の開校時における対応に倣い、令和17・18年度に新設校を輪番に加える

令和6年度 九州地区特別支援教育研究連盟事務局 年間スケジュール（案）
九州地区特別支援教育研究連盟
佐賀県立大和特別支援学校
●県特研 ☆大会実行委員会 ◎評議員会

月	主な業務内容
3	福岡県より引継ぎ 研究大会に向けた準備（オンライン開催委託業者打合せ等） 一次案内送付 提案者原稿依頼
4	●佐賀県特別支援教育研究会 第1回運営委員会 ☆第1回事務局会（県特研・佐情研） ●佐賀県特別支援教育研究会 第1回理事・幹事研修会 ☆第1回実行委員会 組織づくり（県特研・九特連） 九特連各県事務局への事務連絡 年間スケジュール作成 予算書作成 講演依頼 全特連への事務連絡（研究大会日程調整、分科会関係者確定） ホームページ開設
5	☆第2回実行委員会 ●佐賀県特別支援教育研究会総会及び研修会 ◎九州地区特別支援教育研究連盟第1回評議員会（オンライン開催）5/23（木） 研究大会に向けた準備（提案原稿集約、オンライン開催委託業者打合せ等） 各県の現状報告書の依頼 提案者原稿提出締め切り：5/10（金） 分科会提案者・分科会各係・指導助言者の氏名報告締め切り：5/10（金）
6	☆第3回実行委員会 ◎九州地区特別支援教育研究連盟総会開催（紙面開催） アンケート集約・公開 研究大会に向けた準備（分科会関係者打合せ、大会要項作成等） 二次案内送付 各県の現状報告書の提出締め切り：6/28（金）
7	☆第4回実行委員会 ◎九州地区特別支援教育研究連盟第2回評議員会（オンライン開催）7/18（木） 研究大会に向けた準備（最終調整、リハーサル、オンライン開催委託業者との打合せ） 開会行事来賓挨拶・記念講演等事前収録（当日、録画データ配信分） ※未定 大会参加申し込み期間：7/1（月）～19（金） 各県の事業報告書の依頼
8	分科会前日打ち合わせ会 8/1（木） 第58回 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会＜佐賀大会＞ 第52回 九州地区情緒障害教育研究会＜佐賀大会＞合同開催 8/2（金） 礼状発送
9	研究大会集録作成 引継ぎ資料作成 参加者アンケート集約
10	☆第5回実行委員会
11	
12	●佐賀県特別支援教育研究会第2回運営委員会 ☆第2回事務局会（県特研・佐情研） 各県の事業報告書提出締め切り：12/27（金）
1	●佐賀県特別支援教育研究会 第2回理事・第5回幹事研修会 ☆第6回実行委員会 研究大会集録送付 引継ぎ資料完成
2	◎九特連事務局業務引継ぎ会（長崎県）
3	会計報告

※ 令和5年度開催日（参考）

• 佐賀県特別支援教育研究会第1回運営委員会	4/28（金）	集合型
• 佐賀県特別支援教育研究会第1回理事幹事研修会	5/16（火）	集合型
• 第1回実行委員会	5/16（火）	集合型
• 佐賀県特別支援教育研究会総会及び研修会	6/1（木）	オンライン開催
• 九州地区特別支援教育研究連盟第1回評議員会	6/22（木）	オンライン開催
• 第1回事務局会（県特研・佐情研）	7/4（火）	集合型
• 第2回実行委員会	7/18（火）	集合型
• 九州地区特別支援教育研究連盟総会 7月紙面開催		
• 第3回実行委員会	8/18（金）	集合型
• 第4回実行委員会	10/12（木）	オンライン開催
• 九州地区特別支援教育研究連盟第2回評議員会開催	10/26（木）	オンライン開催
• 第57回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会福岡大会	12/1（金）	ハイブリッド型開催
• 第5回実行委員会	12/5（火）	集合型
• 佐賀県特別支援教育研究会第2回運営委員会	12/22（金）	集合型
• 佐賀県特別支援教育研究会第2回理事、第5回幹事研修会	1/12（金）	集合型

関係各位

令和6年度 第58回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会<佐賀大会>
 第52回九州地区情緒障害教育研究会<佐賀大会> 合同開催 第一次案内

大会主題

共生社会の中で自分らしく主体的に活動する子どもの育成を目指して

- 1 期 日 令和6年 8月 2日(金)
- 2 会 場 ホテルグランデはがくれ 佐賀市天神2丁目1番36号 TEL 0952-25-2212
- 3 開催方法 参集とオンラインによるハイブリッド型研修会
- 4 参加費 3,000円(資料代を含む) 参集、オンライン参加者とも
 ※大会要項は、各自でダウンロードをお願いします。6月下旬ホームページにアップします。
 ※大会集録は、大会終了後、参加申込まいただいた方へ郵送いたします。

5 日 程

9:00 9:30 10:15 12:00 13:00 13:30 15:40 16:00

受付 開場	開会 行事	記念講演	昼食	受付 開場	分科会 九特連大会 九情研大会	諸連絡 アンケート 記入
----------	----------	------	----	----------	-----------------------	--------------------

6 分科会

分科会		提案①	提案②	提案③	司会	記録	指導助言
九特連大会	1 各教科等の指導 (小学校段階)	福岡 (特支)	長崎 (小中)	熊本 (特支)	福岡 熊本	佐賀	福岡 熊本
	2 各教科等の指導 (中学校・高等学校段階)	長崎 (特支)	大分 (小中)	沖縄 (小中)	長崎 佐賀	佐賀	長崎 佐賀
	3 各教科等を合わせた指導	大分 (特支)	宮崎 (小中)	佐賀 (小中)	大分 佐賀	佐賀	大分 佐賀
	4 キャリア教育・進路指導	宮崎 (特支)	鹿児島 (小中)	福岡 (小中)	宮崎 佐賀	佐賀	宮崎 佐賀
	5 自立活動	鹿児島 (特支)	熊本 (小中)	沖縄 (特支)	鹿児島 沖縄	佐賀	鹿児島 沖縄
九情研大会	6 自閉スペクトラム症	長崎	宮崎	/	長崎 宮崎	佐賀	佐賀
	7 自閉スペクトラム症(開催県)	佐賀	佐賀	/	佐賀	佐賀	佐賀
	8 LD, ADHD	鹿児島	熊本	/	鹿児島 熊本	佐賀	佐賀

7 記念講演

演題 「未定」

講師 帝京平成大学 人文社会学部 児童学科 小学校・特別支援コース
 教授 田中 良広 先生

[大会事務局]
 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会
 佐賀大会事務局
 佐賀県立大和特別支援学校内
 〒840-0213 佐賀市大和町大字久留間 3353 番地
 TEL: 0952-62-1221 FAX: 0952-51-2009
 事務局長 松本 展明
 事務局員 武富 順子



佐賀県特別支援教育研究会のページは
 佐賀県立大和特別支援学校 HP 内にあります。
<https://www.education.saga.jp/hp/yamatoto-kubetsushien/>

[大会事務局]
 九州地区情緒障害教育研究会
 佐賀大会事務局
 伊万里市立国見中学校内
 〒849-4271 伊万里市東山代町長浜 1750 番地
 TEL: 0955-23-5195 FAX: 0955-23-5196
 事務局長 永元 千穂
 事務局員 寺尾 紀子



九州地区情緒障害教育研究会のページ
<https://www.kyujoken.com>

令和5年12月18日

令和6年度 第58回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会<佐賀大会>
 第52回九州地区情緒障害教育研究会<佐賀大会>合同開催
 分科会テーマ

令和6年度九州地区特別支援教育研究連盟事務局校

佐賀県立大和特別支援学校

	分科会	テ ー マ
九 特 連 大 会	第1分科会 各教科等の指導 (小学校段階)	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた各教科等の指導のあり方
	第2分科会 各教科等の指導 (中学校・高等学校段階)	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた各教科等の指導のあり方
	第3分科会 各教科等を合わせた指導	児童生徒一人一人が力を発揮し、主体的に活動する各教科等を合わせた指導のあり方
	第4分科会 キャリア教育・進路指導	児童生徒が自分らしく主体的に自立と社会参加を目指す進路指導のあり方
	第5分科会 自立活動	主体的に困難の改善・克服に取り組む自立活動の指導のあり方
九 情 研 大 会	第6分科会 自閉スペクトラム症	子どもたちの自立と社会参加につなげる特別支援教育の充実を目指して
	第7分科会 自閉スペクトラム症 (開催県)	
	第8分科会 LD, ADHD	

連絡事項③ 全特連功労者推薦について

1. 推薦の流れ

- (1) 各地区や特別支援学校で候補となる人物を推薦。**(沖特研事務局へ、随時受付)**
- (2) 推薦された人物について掌握し、会長・副会長・会長補佐・監事で協議して1名に絞る。
- (3) 推薦のあった地区・学校の代表者が推薦書を作成し、事務局が全特連へ6月上旬に報告する。

2. 推薦の条件(全特連「表彰に関する内規」より)

各都道府県(特別市)単位団体から推薦する候補者については、**次の二つの要件を満たす者**とする。

- (1) 特別支援教育関係の学校・学級・施設・団体・官公署等に10年以上勤務し、この教育の発展に多大の貢献をした者。
- (2) 本連盟ならびに単位団体の役員・事務局員等を5年以上つとめ、本連盟ならびに単位団体の活動の促進、組織の強化等に貢献した者。

※なお、功労者表彰推薦の時期に故人となられた方を推薦したい場合は、事前に本部事務局とご協議ください。

3. これまでの本会の推薦状況

年度	氏名	役職	年度	氏名	役職
平成14	田仲 康丈	県立名護養護学校校長	平成25	棚原 恵子	うるま市立具志川小学校校長
平成15	松島 朝重	県立鏡が丘養護学校校長	平成26	玉城 惇	県立鏡が丘特別支援学校校長
平成16	金城 哲夫	玉城村立玉城中学校教諭	平成27	初鹿野 修	那覇市立金城小学校校長
平成17	真玉橋 初子	南城市立大里北小学校校長	平成28	名嘉 ゆり子	沖特研 那覇支部支部長
平成18	池保 節子	具志川市教育委員会特殊教育指導員	平成29	玻名城 安教	県立八重山特別支援学校校長
平成19	國場 厚子	県立西崎特別支援学校校長	平成30	新崎 每子	県立美咲特別支援学校校長
平成20	該当者なし		令和元	該当者なし	
平成21	該当者なし		令和2	該当者なし	
平成22	仲間 博史	県立島尻養護学校校長	令和3	該当者なし	
平成23	津嘉山 信行	西原町立西原東中学校校長	令和4	當間 保	南風原町立南風原中学校校長
平成24	新垣 香代子	うるま市立あげな小学校教頭	令和5	大城 政之	浦添市教育委員会 就学指導員

※研究会ホームページの「各種様式」から以下のファイルがダウンロードできます。

<http://www.okitokuken-as.open.ed.jp/post-9.html>

・推薦調書(記入例を含む) ・表彰規定



連絡事項④ 次年度役員の氏名報告について

沖 特 研 第〇号
令和6年3月吉日

市町村立小・中学校特別支援学級・通級指導教室設置校 校長 殿
県立知的障害特別支援学校 校長 殿
沖縄県特別支援教育会 役員各位

沖縄県特別支援教育研究会
会 長 岡 越 猛
県立名護特別支援学校 校長



令和6年度 役員の氏名報告について(依頼)

時下、貴殿におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本研究会へのご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、見出しの内容について、次年度の研究会運営に向けて、下記の通りご準備賜りますよう、お願いいたします。特に年度替わりの際に役員の交代が見込まれる場合は、確実に引き継ぎをいただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。

記

1. 報告の内容：次年度の役員について以下の情報をご報告下さい

・氏名 ・所属 ・役職 ・電話番号 ・メールアドレス*

※ 職場個人用として常に確認可能なものをご記入ください

※ ここで得た情報を目的外で使用することは一切ありません

2. 役員の内訳

(1) 小・中学校の役員

① 支部長

② 副支部長*

③ 評議員*

※ 例年運営のしやすさから、各地区において小学校・中学校にそれぞれ支部長(校長)、評議員(教諭)／副支部長(校長)、評議員(教諭)を置くことが多いようです

(2) 特別支援学校の役員

① 支部長(校長)

② 評議員(副校長または教頭)

③ 評議員(教諭)

3. 報告方法：下記 URL または右掲 QR コードより入力

(1) 小・中学校の役員：<https://forms.office.com/r/kf1ERW9CAR>

(2) 特別支援学校の役員：<https://forms.office.com/r/55uHYDDi2N>



小・中学校



特別支援学校

4. 報告の期限：令和6年4月19(金)まで

5. そのほか：

- 別途に集約用紙をご準備しておりますので、ご利用ください
- 役員の選出にあたっては、研究会ホームページの「会則」をご参照ください

《問い合わせ》



沖縄県
特別支援教育
研究会

令和5・6年度 事務局
諸見里 知恵・田名 温
呉屋 光・伊良波 愛理
宮川 啓

県立名護特別支援学校 沖縄県名護市宇茂佐760
TEL: 0980-52-0505 FAX: 0980-54-1486
MAIL: okitokuken@as.open.ed.jp
HP: <http://www.okitokuken-as.open.ed.jp> →



- ・この用紙は集約用です。ご提出の際は、各フォームにご入力ください
- ・役員の選出にあたっては、研究会ホームページの「会則」を参照ください
- ・メールアドレスは、必ず個人用として常に確認可能なものをご記入ください

メ切:4月19日(金)

○小・中学校用

支部・研究会名:					
支部長	氏名		役職	電話番号	() -
立		学校	メールアドレス		@
副支部長①	氏名		役職	電話番号	() -
立		学校	メールアドレス		@
副支部長②	氏名		役職	電話番号	() -
立		学校	メールアドレス		@
評議員	氏名		役職	電話番号	() -
立		学校	メールアドレス		@
評議員	氏名		役職	電話番号	() -
立		学校	メールアドレス		@
評議員	氏名		役職	電話番号	() -
立		学校	メールアドレス		@

※例年では各地区において運営のしやすさから、小・中学校にそれぞれ支部長(校長)・評議員(教諭)/副支部長(校長)・評議員(教諭)を置くことが多いようです

※また、会則には各地区で評議員を2名以上選出し、そのうち1名は支部長を兼ねることができるとあります

・右掲QRコードまたは下記URLよりご入力ください

<https://forms.office.com/r/kf1ERW9CAR>



○特別支援学校用

県立	特別支援学校	電話番号	() -
支部長	氏名	メールアドレス	@
評議員(副校長または教頭)	氏名	メールアドレス	@
評議員(教諭)	氏名	メールアドレス	@
評議員(教諭)※	氏名	メールアドレス	@

※必要に応じて、教諭より評議員を2名選出いただくことができます

・右掲QRコードまたは下記URLよりご入力ください

<https://forms.office.com/r/55uHYDDi2N>



出席確認およびアンケート

以下のQRコードまたはURLからご回答下さい。回答は5分程度で完了します。ご協力をお願いいたします。なおここで集めた情報は、本研究会の運営以外の目的では一切使用いたしません。また頂戴した回答については、後日集約して役員ホームページにて公開いたします。



<https://forms.office.com/r/UhisSVayZV>

問い合わせ

令和5・6年度 沖縄県特別支援教育研究会 事務局

事務局長 諸見里 知恵 会計 田名 温 情報 呉屋 光

 名護市字茂佐760 沖縄県立名護特別支援学校内

 okitokuken@as.open.ed.jp

 0980-52-0505

 0980-54-1486

 <http://www.okitokuken-as.open.ed.jp>

